

自治医科大学看護学部年報(第12号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報(第8号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2013

目 次

○ 特別報告

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」
学部長兼研究科長 春山 早苗 5

○ 活動報告

38単位専門看護師教育課程の認定を受けて
看護学研究科幹事長 中村 美鈴 13

○ 看護学部委員会等報告

人事委員会	春山 早苗 21
教務委員会	成田 伸 22
学生委員会	大塚公一郎 23
FD評価実施委員会・研究推進委員会	本田 芳香 25
広報委員会	永井 優子 27
編集委員会	中村 美鈴 30
国家試験対策委員会	渡邊 亮一 32
臨地実習指導研修委員会	半澤 節子 34
入試実施委員会	渡邊 亮一 35

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

研究科委員会	春山 早苗 39
研究科委員会幹事会	中村 美鈴 41

○ 教育研究分野別報告

看護基礎科学	45
基礎看護学	48
地域看護学	49
精神看護学	52
母性看護学	54
小児看護学	57
成人看護学	59
老年看護学	62

○ 大学院看護学研究科 教育の概要

博士前期課程

実践看護学分野

母子看護学領域「小児看護学」	65
母子看護学領域「母性看護学」	66
健康危機看護学領域「クリティカルケア看護学」	67
健康危機看護学領域「精神看護学」	68
がん看護学領域「がん看護学」	69
地域看護管理学分野	
老年・地域看護管理学領域「老年看護管理学」	70
老年・地域看護管理学領域「地域看護管理学」	71
共通科目	72
博士後期課程	
広域実践看護学分野	74

○ 研究業績録

看護基礎科学	77
基礎看護学	79
地域看護学	80
精神看護学	83
母性看護学	84
小児看護学	85
成人看護学	86
老年看護学	88

○ 資料

2013年度（平成25年度）看護学部学年暦	91
自治医科大学看護学部の概況	92
看護学部教職員名簿	93
2013年度（平成25年度）大学院看護学研究科学年暦	94
大学院看護学研究科の概況	94
大学院看護学研究科教職員名簿	95
編集後記	96

特別報告

特別報告

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「日本型地域ケア実践開発研究事業」

看護学研究科 研究科長 春山 早苗

1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業とは

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業は、各大学の経営戦略に基づいて行う研究基盤の形成を支援するため、研究プロジェクトに対して重点的かつ総合的に補助を行う文部科学省の事業であり、もってわが国の科学技術進展に寄与することを目的としている。募集される研究プロジェクトの観点には、「研究拠点を形成する研究」（原則5年間）、「大学の特色を活かした研究」（原則3年間）、「地域に根ざした研究」（原則3年間）がある。本看護学研究科は、「研究拠点を形成する研究」として「日本型地域ケア実践開発研究事業（平成25年度～平成29年度）」を申請し、採択された。

2. 「日本型地域ケア実践開発研究事業」の背景と目的

本学はへき地等地域医療に従事する医師及び看護職の養成を目的としている。

本看護学研究科では、高度な看護実践に関する研究やチーム医療を推進するがん看護に関する研究、地域特性に応じた看護職の教育・支援システムに関する研究、患者の療養場所移行支援に関する研究等に取り組んできた。これらの研究からへき地において、特に医師と看護師との協働が必要となる地域医療活動として、「外来患者管理」、「緊急時の初期判断・対応」、「ターミナル及び看取りへの対応」が明らかになっている。また、課題として、複雑・困難な臨床判断能力と侵襲性の高い高度な医療技術をもち、キュアとケアを統合できる地域ケアに卓越した看護師の養成や、当該看護師の地域特性・医療施設特性に応じた教育体制づくり、医師と看護師との協働を促進するプロトコールや安全管理体制の整備が示唆された。

本事業の目的は、看護師がチーム医療の中でよりいっそう機能していくための地域ケアスキル・トレーニングプログラムを開発し、また地域特性に応じた当該看護師の教育・支援システムの検討をあわせて行うことにより、患者の目線も踏まえ

た医師と看護師の協働のあり方など、日本における地域ケアの実践モデルを構築することである。

わが国では、医師の負担増大と地域医療崩壊の危機が問題となっており、チーム医療の推進と看護師の役割拡大への期待が高まっている。このような現状において、本事業により、地域ケアを担う人材育成から教育・支援システムの構築に至るまで日本型地域ケア実践の研究基盤を形成することは、地域医療の向上・発展への寄与を理念としている本学の役割といえる。また、本学大学院看護学研究科開設の目的は、博士前期課程では高度医療と地域医療をつなぐチーム形成と機能向上を図る専門看護師や認定看護管理者等の高度実践看護職の育成であり、博士後期課程ではわが国のヘルスケアシステムを視野に入れつつ複数の看護専門領域から看護学の発展に寄与できる教育研究者の育成である。本事業は、このような本看護学研究科の目的と連動するものである。

本研究事業は、以下の2つの研究テーマを設定して推進していく。

1) 研究テーマ1 地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究

(研究代表者 教授 本田芳香)

本研究は、看護師が、チーム医療の中で機能していくために必要な、複雑・高度な臨床判断能力と侵襲性の高い医療技術を備え、キュアとケアを統合できる卓越した地域ケアスキルを獲得するためのトレーニングプログラムの内容及び教育方法を明らかにすることを目的とする。

本研究の企画立案と運営を行うため、プログラム開発・推進委員会とプログラム実施・評価委員会の2つの委員会を設置した（表1）。

2) 研究テーマ2 地域ケア実践看護師の教育・支援システムの開発研究

(研究代表者 教授 春山早苗)

本研究は、看護師が地域ケアスキルを獲得するための教育体制と、地域ケアスキル獲得後のフォローアップシステムを構築するために必要となる

表1 平成25年度 研究組織

全体研究代表者 看護学研究科 研究科長・附属病院看護職キャリア支援センター 副センター長 春山早苗
 ★委員長 ☆副委員長

研究テーマ1 地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究			研究代表者	教授	本田芳香
研究テーマ1企画委員会	プログラム開発・推進委員会	プログラム実施・評価委員会			
看護学部 教授 ★本田芳香 教授 大塚公一郎 教授 中村美鈴 教授 野々山未希子 教授 宮林幸江 附属病院看護部副部長・看護職キャリア支援センターメンバー・臨床准教授 小谷妙子	看護学部 准教授 ★小原泉 准教授 ☆里光やよい 准教授 大脇淳子 講師 平尾温司 助教 飯塚由美子 助教 岩永麻衣子 助教 横山定美 助教 若澤弥生 附属病院主任看護師・CNS・看護職キャリア支援センターメンバー・臨床講師 茂呂悦子	看護学部 准教授 ★横山由美 准教授 ☆浜端賢次 准教授 北田志郎 講師 小林京子 講師 清水みどり 講師 田村敦子 助教 安藤恵 助教 熊谷歩 助教 柴山真里 助教 湯山美杉 助教 吉田紀子 附属病院看護師長・看護職キャリア支援センターメンバー・臨床講師 弘田智香			
研究テーマ2 地域ケア実践看護師の教育・支援システムの開発研究		研究代表者	春山早苗		
研究テーマ2企画委員会	実践看護師教育システム委員会	地域ケア実践看護師フォローアップシステム委員会			
看護学部 教授 ★春山早苗 教授 永井優子 教授 成田伸 教授 半澤節子 教授 渡辺亮一 地域医療学センター 学内教授 石川鎮清 附属病院看護部副部長・看護職キャリア支援センターメンバー 小谷妙子	看護学部 准教授 ★村上礼子 准教授 ☆鈴木久美子 講師 川上勝 助教 江角伸吾 助教 関山友子 助教 段ノ上秀雄 助教 中野杏梨 メイカル・ミュージョンセンター 助教 浅田義和 附属病院看護職キャリア支援センター教育プログラム開発支援部門部門長・臨床講師・ 福田順子	看護学部 准教授 ★塚本友栄 准教授 ☆角川志穂 講師 千葉理恵 講師 飯塚秀樹 助教 青木さぎ里 助教 石井慎一郎 助教 黒尾絢子 助教 小池純子 助教 島田裕子 附属病院医療情報部看護師長・看護職キャリア支援センター臨床講師・ 大柴幸子			
業務補助 皆川麗沙（平成25年9月～H26年3月）	菊地陽（平成25年8月～12月）				

条件や関連因子を、地域特性かつ医療施設の機能別に明らかにし、地域ケア実践看護師の教育・支援システム構築のための指針を作成することを目的とする。

本研究の企画立案と運営を行うため、地域ケア実践看護師教育システム委員会と地域ケア実践看護師フォローアップシステム委員会の2つの委員会を設置した（表1）。

3. 研究計画・研究方法

1) 研究体制

本事業は本看護学研究科が主体となり、地域医療の向上・発展のための教育・研究・診療等を行っている本学医学部や地域医療学センター、本学附属病院、同看護職キャリア支援センター、メイカル・ミュージョンセンターの協力を得て、また看護職のトレーニングにおける模擬患者等として地域住民の方々にも協力を得て実施する（図）。

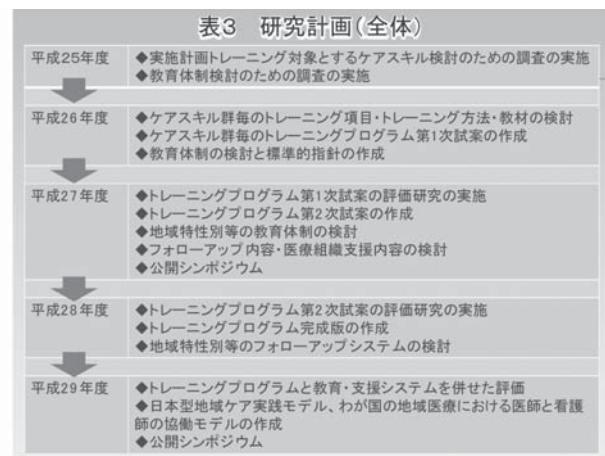
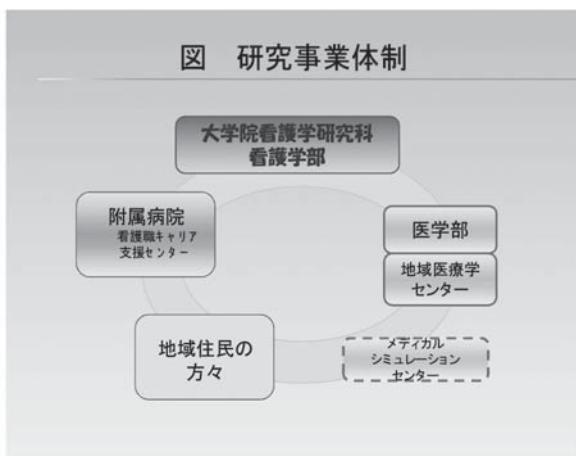


表2 事業評価委員

<外部委員>	
伊藤雄二	(公益社団法人 地域医療振興協会 西吾妻福祉病院 病院長)
上野まり	(公益財団法人 日本訪問看護財団 事業部長)
大湾明美	(沖縄県立看護大学 教授)
角田直枝	(茨城県立中央病院 看護部長)
藤内美保	(大分県立看護科学大学 教授)
真砂涼子	(群馬パース大学保健学部看護学科 教授)
<学内委員>	
春山早苗	大学院看護学研究科 研究科長
全体研究代表者	テーマ2研究代表者・企画委員長
本田芳香	大学院看護学研究科 教授
	テーマ1研究代表者・企画委員長
小原泉	大学院看護学研究科 准教授
	テーマ1 プログラム開発・推進委員長
横山由美	大学院看護学研究科 准教授
	テーマ1 プログラム実施・評価委員長
村上礼子	大学院看護学研究科 准教授
	テーマ2 実践看護師教育システム委員長
塚本友栄	大学院看護学研究科 准教授
	テーマ2 地域ケア実践看護師フォローアップシステム委員長
安田是和	(附属病院 病院長)
朝野春美	(附属病院 副病院長 看護部長)
百村伸一	(附属さいたま医療センター センター長)
越智芳江	(附属埼玉医療センター 看護部長)
石川鎮清	(地域医療学センター 教授)

2つの研究テーマの研究代表者及び4委員会の委員長、並びに、学外の専門家等による事業評価委員会を設置し（表2），年次計画の進捗状況と達成度を点検・評価し、その結果を各委員会にフィードバックしながら本事業を進めていく。

2) 研究計画・研究方法

全体計画を表3に示す。

(1) テーマ1

プログラム開発・推進委員会は、トレーニング対象とするケアスキル及びケアスキル群を決定し、ケアスキル群毎のトレーニング項目・トレーニング方法・教材を検討し、ケアスキル群毎に完結し

たトレーニングプログラムの試案を作成する。試案したトレーニングプログラムが研究テーマ2の地域ケア実践看護師教育システム委員会がリクルートした看護師に適用された後、プログラム実施・評価委員会による評価のフィードバックを受け、トレーニングプログラムを精錬していく、完成版を作成する。プログラム実施・評価委員会は、プログラム開発・推進委員会が試案したトレーニングプログラムについて、研究テーマ2の地域ケア実践看護師教育システム委員会が検討した教育体制下で、また同委員会がリクルートした看護師を対象に運営・実施する。トレーニングプログラムの評価方法を検討して評価を実施し、プログラム開発・推進委員会にフィードバックする。

(2) テーマ2

地域ケア実践看護師教育システム委員会は、研究テーマ1のプログラム開発・推進委員会と連携して、プロトコールや安全管理体制等、地域ケアスキルトレーニングを実施する際に必要な教育体制を明らかにし、その標準的な指針を作成する。加えて、多様な地域特性かつ医療施設の医療提供体制や看護師教育体制の実態調査並びに研究テーマ1においてトレーニングを受けた看護師が所属する施設の医療技術を指導する医師および看護組織の管理者への調査から、地域特性かつ医療施設の機能別に類型化した教育体制とその構築方法を検討し、指針を作成する。

地域ケア実践看護師フォローアップシステム委員会は、研究テーマ1においてトレーニングを受けた看護師の所属する医療施設における地域ケア実践の成果と困難を調べ、成果を上げている看護師及び看護組織等のサポート状況、所属する医療施設の特徴を明らかにする。また、希望する受講

修了者の地域ケア実践を支援するために、遠隔支援システムを活用したケースカンファレンス、コンサルテーションを実施し、受講終了者に必要なフォローアップ内容を明らかにする。併せて、医療技術を指導する医師および看護組織の管理者にも受講者が所属する組織において機能するための体制づくりにかかる支援を実施し、医療施設・組織に必要な支援内容を明らかにする。

以上のことから、地域特性かつ医療施設の機能別に類型化した地域ケア実践看護師フォローアップシステム及び医師と看護師との協働等医療組織体制とそれらの構築方法を検討し、指針を作成する。

4. 本研究事業により期待される成果

本研究事業により、以下のような成果が期待される。

- ・地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発により、現在、へき地を含む地域医療に従事している看護師の中から複雑・高度な臨床判断能力と侵襲性の高い高度な医療技術をもち、キュアとケアを統合できる地域ケアのリーダーとなり得る看護師を育成することができる。また、地域ケアスキルを獲得し、地域医療の中で機能できる卓越した看護師を育成することができる。
- ・地域ケア実践看護師の地域特性かつ医療施設の機能に応じた教育・支援システムを開発することにより、地域特性や保健医療福祉資源の相違があっても地域ケアスキルを獲得した看護師の定着と資質の維持向上が持続される。このことにより、地域医療に従事する多くのジェネラリスト看護師が提供するケアの質が向上して、住民の福祉に寄与するとともに、協働する医師の負担を軽減することができ、本学の使命である地域医療の向上と発展に寄与する。

- ・以上のことから、地域ケアを担う人材育成から教育・支援システムの構築まで日本型地域ケア実践が体系化されるとともに、わが国の地域医療における医師と看護師の協働モデルを提示することができ、医師の負担軽減並びに地域医療の質向上と活性化に寄与することができる。

5. 平成25年度の取り組み

1) 調査

①へき地診療所調査

調査の目的は、へき地診療所における看護体制や看護活動の現状と変化、診療所において医師の指示のもと実施した経験のある診療の補助行為等を明らかにし、へき地で働く看護師の人材育成と支援に役立つ基礎資料を得ることであった。

全国のへき地診療所（2013年 833施設）で働く看護職を対象に、郵送による無記名自記式質問紙調査を行った。その結果を、2003年及び2008年のへき地診療所全国調査の結果と比較した。

②高度医療と地域医療をつなぐ看護職の役割拡大に関するニーズ調査

調査目的は、地域医療に求められる実践能力とリーダーシップ性を強化したキュアとケアを統合する地域包括ケアのリーダーを担う高度実践看護職の育成のための教育内容について示唆を得ることであった。

へき地医療拠点病院（261施設）及びそれ以外の単科ではない100床以上400床未満の医療機関（268施設）の看護職、各3名、加えて本学附属病院よりへき地医療拠点病院等への派遣経験のある看護師120名を対象に、郵送による無記名自記式質問紙調査を行った。

③医療機関訪問調査

調査目的は、トレーニング内容、トレーニング方法、教材を検討するための基礎資料、並びに、プロトコール作成及び安全管理体制の構築を含む地域ケア実践看護師の教育体制の構築を促進する又は阻害する要素を検討するための基礎資料を得ることであった。

へき地医療拠点病院（44～150床）5施設、地域中核病院（173～400床）3施設の看護師22人を対象にインタビュー調査を行った。

④離島、山村・過疎地域を含む地域で実践している看護職へのグループインタビュー調査

調査目的は、地域特性を考慮した、卓越した地域ケア実践看護師に必要なスキルを明確化し、地域ケア実践看護師を対象とした教育プログラムの教育内容・教育方法・教育体制への示唆を得ることであった。

グループインタビューは3グループを編成して行った。それらのグループは、北関東圏内の地域病院・訪問看護ステーションに勤務する看護職グループ（5人）、山村過疎地域にあるへき地医療拠点病院・診療所に勤務する看護職グループ（5人）、離島にあるへき地医療拠点病院・診療所に

勤務する看護職グループ（6人）であった。

2) 観察等による情報収集と勉強会の開催

①シミュレーション教育施設の観察

観察の目的は、本事業にかかる演習室、ならびに、シミュレーター等の運営体制及び教育体制の充実化を図るため、既にシミュレーションセンターを運営している施設の教育体制や各種シミュレーター・教育機器の管理・運営方法の現状と課題を把握することであった。

7カ所のシミュレーター施設及び教育機関を観察した。

②N P教育観察

ナースプラクティショナー（以下、N Pとする）の養成のための教育内容や教育方法について情報を入手するため、N P養成の教育課程を有する2カ所の大学院を観察した。

③S P教育観察

模擬患者（以下、S Pとする）の募集方法、S Pの運用方法と課題、S P養成プログラムについて示唆を得るために、S Pを養成・運用している5カ所の大学を観察した。

④eポートフォリオ等教育方法に関する情報収集や勉強会の開催

eポートフォリオ等教育方法に関する情報収集をするために、Maharaオープンフォーラムや医学教育セミナーに参加した。また、eポートフォリオ等に関する勉強会を開催した。

3) 広報活動

①記念講演会

本事業の広報活動として平成26年2月28日に記念講演会（表4）を開催した。参加者は101名であった。

表4 記念講演会プログラム

■学長あいさつ 永井良三（自治医科大学 学長）
■日本型地域ケア実践開発研究事業の概要 春山早苗 (自治医科大学大学院看護学研究科 研究科長)
■講演1「我が国の医療の現状を踏まえたプライマリ・ケアの必要性と看護師の役割」 塚本容子 (北海道医療大学大学院看護学研究科 教授)
■講演2「これから医師と看護師の協働—看護師のスキルマックスへの期待—」 長松宣哉 (社会医療法人 関愛会 佐賀関病院 理事長)
■講演3「地域が育てる医療人—医療人育成に参与する模擬患者の役割—」 福井みどり (財団法人ライフ・ブランディング・センター 健康教育サービスセンター副所長)

②ホームページの作成

本学ホームページ内に本研究事業に関するホームページを作成した。

4) 会議及び評価委員会の開催

企画委員会を2回、各委員会委員長及び副委員長を構成員とする合同委員会を6回、テーマ1の会議を4回、テーマ2の会議を5回開催した。また、平成25年3月1日に事業評価委員会を開催し、外部委員5名、学内委員9名が参加した。

5) その他

S P候補者にS Pの役割を説明し、理解を促すこと、並びに、S Pとしての参加協力を依頼することを目的に、DVD教材 模擬患者PR版「医療コミュニケーション力を育てるために」（7分39秒）を作成した。

6. 検討課題と今後の方向性

1) 看護師が従事する地域環境の特性を考慮した地域ケアスキル・トレーニングプログラムの検討

看護師に提供されている実践教育の多くは、対象の特性に応じた教育プログラムが、限定された組織環境の中で現場教育として行われている。本事業は、地域の第一線で既に活躍している中堅かつリーダーの素養を兼ね備えた看護師が対象であるが、マンパワー不足等から高度な医療技術を実施せざるを得ない状況にあるにも関わらず、実施する技術についての教育の機会が得られにくい状況にある。このような状況を踏まえ、本事業では、へき地や在宅等看護師が働く地域や施設の規模がいかなるものであっても、継続的に学習し続けることができるための方策を検討していく必要がある。

よって、地域ケアスキルトレーニングプログラムは、次の3つの観点から検討していく。1点目は、eラーニングによる教育プログラム構築である。対面教育は、学習者が教育者と、場と時間を共有しながら学んでいくが、本事業は看護師がいつでもどこでも学ぶことのできる教育方法を検討していく。2点目は個々の関心と学習進度に対応できる教育プログラムの構築である。看護師が自分の関心に合わせて学習単元を選択し、ある程度、自分のペースで進め、学習を積み重ねていけるような教育プログラムを検討していく。加えて、学習の積み重ねを自己管理し、看護師としての成長をリフレクションしていくようなポートフォリ

才等も検討していく必要がある。3点目は、特定行為に係る知識・スキルを確実に修得できる教育プログラムの構築である。本事業は、厚生労働省が検討中の特定行為に係る看護師の研修も視野に入れながら進めていくこととしている。医師の包括的指示に基づいて特定行為を実施する看護師には、高度な判断や技術が求められ、これらを培うことのできる教育プログラムの構築が必要である。実践経験のある看護師が対象であることを踏まえ、学習意欲を引き出し、モチベーションを維持できるように、事例等を用いて看護実践に引きつけながら学んでいくことのできる教育方法を検討していく。

2) 地域ケアスキル・トレーニングの方法及び内容の検討

教育方法として、講義やビデオ、資料や教材の提示による一方向的な方法、テストや演習等においてフィードバックしながら進める双方向的方法、そして小集団・チームによる学習が考えら、学習目標に応じて、eラーニングも含めて、これらの方法の組み合わせを検討していく必要がある。また、学習の到達度については、理解度、判断力、技術の修得状況、看護実践への反映等の観点から評価していく必要があり、学習目標や評価の観点に応じて評価方法を検討していく。

3) 受講者のリクルートと教育システムの検討

受講者のリクルートにあたっては、施設管理者及び看護管理者に本研究事業による教育プログラムの目的、教育プログラムの内容、ターゲットとなる看護師等について十分説明し、受講生にどのような役割を期待するか、その見通しの把握を、見通しをもてるような働きかけも併せて行いながら、していく必要がある。また、プロトコールの必要性に対する認識を把握し、教育プログラムの内容には組織的なバックアップに基づいて、プロトコールを作成することも含まれることを十分、説明する必要がある。

教育体制の構築に影響することとして、【学習のために看護師が確保できる現実的な時間・期間】、【施設が所在する場所・地域特性】、【看護師の学習ニーズや目標】、【教育プログラムの魅力】、【看護師の学習意欲】、【看護師のICTに関する経験や基本的な知識】等が示唆されたことから、受講生の所属する施設の機能や所在する場所・地域特性も考慮して、看護師が受講しやすい教育プロ

グラムの形態を検討する必要がある。また、本研究事業による教育プログラムを受講することが、受講者の学習ニーズや目標に、どのように結び付くのか、受講前あるいは受講開始時に確認・指導する必要性とその方法についても検討していく。

調査結果から、教育体制の構築に影響することとして、【プロトコールに基づく特定行為の実施について想定外のことが起こった場合の対応体制（発生時、発生事象に基づくフィードバック）】が示唆された。これを踏まえて、プロトコールの作成に関する教育方法の検討を、想定外のことが起こった場合を含む安全管理体制と併せて、検討していく。また、受講者個々が自施設においてプロトコールの作成及び安全管理体制をつくっていくことを支援する方法も検討していく必要がある。

4) 受講者のフォローアップシステムの検討

教育体制の構築に影響することとして、【指導医を含む受講中および受講後に受講者を指導・サポートできる人材の有無】、【看護師の学習環境（特にIT環境）】、【看護師のICTに関する経験や基本的な知識】、【学習のために看護師が確保できる現実的な時間・期間】、【施設が所在する場所・地域特性】等が示唆された。今後は、第一に、受講者のリクルートの際に、当該施設の看護師の学習環境、指導医を含む指導・サポートできる人材の有無を把握し、その結果に基づいて、施設の機能や所在する場所・地域特性も考慮したフォローアップシステムを検討していく。

7. おわりに

本研究事業は1年目をようやく終えたところであり、教育プログラムを作り、受講生をリクルートして教育を行うのは次年度以後となる。今年度の研究成果を活かし、また、特定行為に係る看護師の研修制度についての国の動向も見据えながら、本研究事業を推進していく所存である。

活動報告

活動報告「38単位専門看護師教育課程の認定を受けて」

看護学研究科 幹事長 中村 美鈴

I. はじめに

自治医科大学看護研究科では、平成18（2006）年の修士課程開設以来、母性看護、小児看護、クリティカルケア看護、精神看護において26単位専門看護師教育課程を開始し、平成22（2010）年にはがん看護学の教育課程が加わった。この専門看護師の教育は看護系大学院で行われ、その教育機関としての認定は日本看護系大学協議会が担っている。また修了生の資格認定については、日本看護協会が実施している。

一方、日本看護系大学協議会では、グローバル水準の高度実践看護師としての専門看護師の育成について検討を重ねてきた。時代的には少子高齢社会や医師不足を背景とし、「看護」に対する社会からの期待は高まっている。また、医療依存度の高い療養者が在宅で、医療行為を受けながら、生活を営む時代へとなりつつある。さらに、厚生労働省チーム医療推進会議において特定看護師議論もなされた。このような背景から、当初26単位の教育課程であったが、「診断・治療に関して、ケアとキュアの融合を高度な知識と技術をもって自律して看護師が関与できる看護実践をより強化することを目的に、平成24年度から38単位の教育課程が追加された。

この時代の流れを受けて、本看護学研究科では、同5分野（母性看護学領域、小児看護学領域、クリティカルケア看護学領域、精神看護学領域、がん看護学領域）において、26単位専門看護師教育課程から、38単位の専門看護師教育課程について平成25年度7月に申請した。その5分野の資格審査の合格通知は同年度12月に届いた（資料1:合格通知書の掲載）。合格通知を受けて、平成26年度4月からは、26単位専門看護師教育課程から38単位専門看護師教育課程に移行する運びとなった。

本稿では、38単位専門看護師教育課程における教育内容の主な変更点、38単位専門看護師教育課程の申請に至るまでの準備状況、38単位専門看護師教育課程の認定を受けてから教育課程の開始までに関する活動報告を述べる。

II. 38単位専門看護師教育課程における教育内容の主な変更点

専門看護師は、「対象のクオリティ・オブ・ライフの向上の向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものである。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整である。また総合的な判断力と組織的な問題解決力をもって専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割が取れる変革推進者として機能する」人材を育成することを日本看護系大学協議会は教育理念として掲げている。

また、専門看護師の共通能力水準として、1.個人・家族または集団に対してケアとキュアを融合した高度な看護実践、2.看護職者に対するケアを向上させるための教育的機能、3.看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行う、4.必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーションを行う、5.専門知識・技術の向上や揮発を図るために実践の場で研究活動を行う、6.倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行うとして、それぞれの専門分野において6つの役割機能を果たすとして掲げられている。現在では、本大学院で開講している母性看護、小児看護、クリティカルケア看護、精神看護以外に、慢性看護、老年看護、家族看護、感染看護、地域看護、在宅看護、遺伝看護、災害看護の13分野の教育課程の審査基準が設けられている。

38単位専門看護師教育課程は、以下の表2に占めすように、科目履修単位、および26単位専門看護師教育課程からの変更点をに示した。①フィジカルアセスメント、②病態生理学、③臨床薬理学（Physical assessment, Physiology, Pharmacologicalの頭文字から「3P科目」と略

称）の共通科目の3P科目に象徴されるように、医師との協働による高度看護実践に関する内容の強化に主眼が置かれている。実習の4単位増加についても、医師との協働の実践に関する実習内容の強化となっている。

表1

共通科目	科目及び履修単位	変更点						
共通科目A	7科目から8単位以上履修：①看護教育論、②看護管理論、③看護理論、④看護研究、⑤コンサルテーション論、⑥看護倫理、⑦看護政策論	変更なし						
共通科目B	3科目から6単位以上履修：①フィジカルアセスメント、②病態生理学、③臨床薬理学（Physical assessment, Physiology, Pharmacologicalの頭文字から「3P科目」と略称）	新たな追加科目						
専門科目	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">専攻分野共通科目</td> <td style="width: 30%;">14単位</td> <td style="width: 40%;">2単位増</td> </tr> <tr> <td>専攻分野専門科目</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 実習（実習期間ではなく、課題の達成を持って単位の認定を行う、必要時事前実習を行う）	専攻分野共通科目	14単位	2単位増	専攻分野専門科目			10単位 4単位増
専攻分野共通科目	14単位	2単位増						
専攻分野専門科目								

本学ではこれまで26単位専門看護師教育課程として教育を展開してきたが、平成26年度から、上記38単位への教育課程の移行を行った。3P科目においては、①フィジカルアセスメント、②病態生理学、③臨床薬理学の3科目を連動させて、その内容を修得することを狙った。合わせて、受講生が目の前の対象の病態・薬理に関してリアイドリティに即して、知識・技術を統合できるよう教育内容・方法を工夫した。また講義形式のみでなく、事前学習、事例の展開、事後の課題レポートの提出、他ディスカッション等を通して、より実践的に知識・技術を修得できる教育方法・内容に工夫を要した。特に、履修する順序性を考慮しながら、担当教員で協議しながら、教育内容を洗練した。

実習科目についてはそれぞれの分野の教育課程の審査基準において、教育内容や方法、および展開方法には独自性が見られた。実際の教育では、指導教員・専門看護師のスーパーバイズのもと、専門看護師相当の看護師や病棟師長からの指導も受けながら実習展開し、必要時医師の指導や調整を依頼してきた。38単位の教育課程では、従来の

実習内容に加え、医師との連携・指導の強化が必要とされた。

III. 38単位専門看護師教育課程の申請に至るまでの準備状況について】表2

申請に至るまでの準備状況については、研究科委員会幹事会で、具体的なスケジュールを検討・審議した。その結果として、表2に記載されているスケジュールで、教育課程の申請に至るまで、進行する運びとなった。5分野（母性看護領域、小児看護領域、クリティカルケア看護領域、精神看護領域、がん看護領域）の教育課程の変更点は、その領域ごとに異なっており、それぞれの教育課程において特徴があった。

また、5分野の申請状況の進捗については、適宜、研究科委員会幹事会ならびに研究科委員会で報告しながら進めていった。実際には、5領域の申請書類作成の進捗状況は、進度に差はあったが、無事に全領域とも期日までに申請にこぎつけることができた。

III. 38単位専門看護師教育課程の認定を受けてから教育課程の開始まで

認定を受けてからは、新たな授業科目を教育を担う担当教員の調整は重要で、時間を要した。主に、本大学医学部教員の協力得るために、春山研究科長と幹事長で、市村副学長、安田病院長に説明・相談へ足を運び、全体的な調整の後、各領域の責任教授が具体的な教育内容を調整した。

また、新たな大学院パンフレットを永井広報委員長が刷新、学生募集要項ならびに入学試験実施要項を成田入試実施委員長が更新、学生便覧博士前期課程については中村が更新、時間割の作成・調整は宮林委員と、多くの書類等の変更を時間的制約のある中で、確実に進めてきた。ここに、26単位教育課程と38単位教育課程の履修モデルを参考とされたい（資料2）。

IV. おわりに

38単位専門看護師教育課程の認定を受けるまでの活動について、述べてきた。

各領域の教授陣は中心となって、それぞれの教育課程の審査基準に則して、より充実した教育内容へと移行した。幹事長は、その指揮を執る役目とさまざまな調整を務めたが、春山研究科長の指

導のもと、多くの皆様のご協力ならびにご理解のお蔭で、その作業を推進できた。26年度からは38単位専門看護師の育成に当たり、教育実践そのものが鍵となる。社会への期待に応えられるよう、関わる教職員一同、専門看護師の育成に力を注ぐ所存である。

最後に、今回の38単位専門看護師教育課程の申請にあたっては、看護学総務課大石課長補佐をはじめ、看護学務課佐藤真美主事他、多くの事務職員の方々に多大なるご尽力をいただき深く感謝の意を表したい。

資料1：認定書（クリティカル）

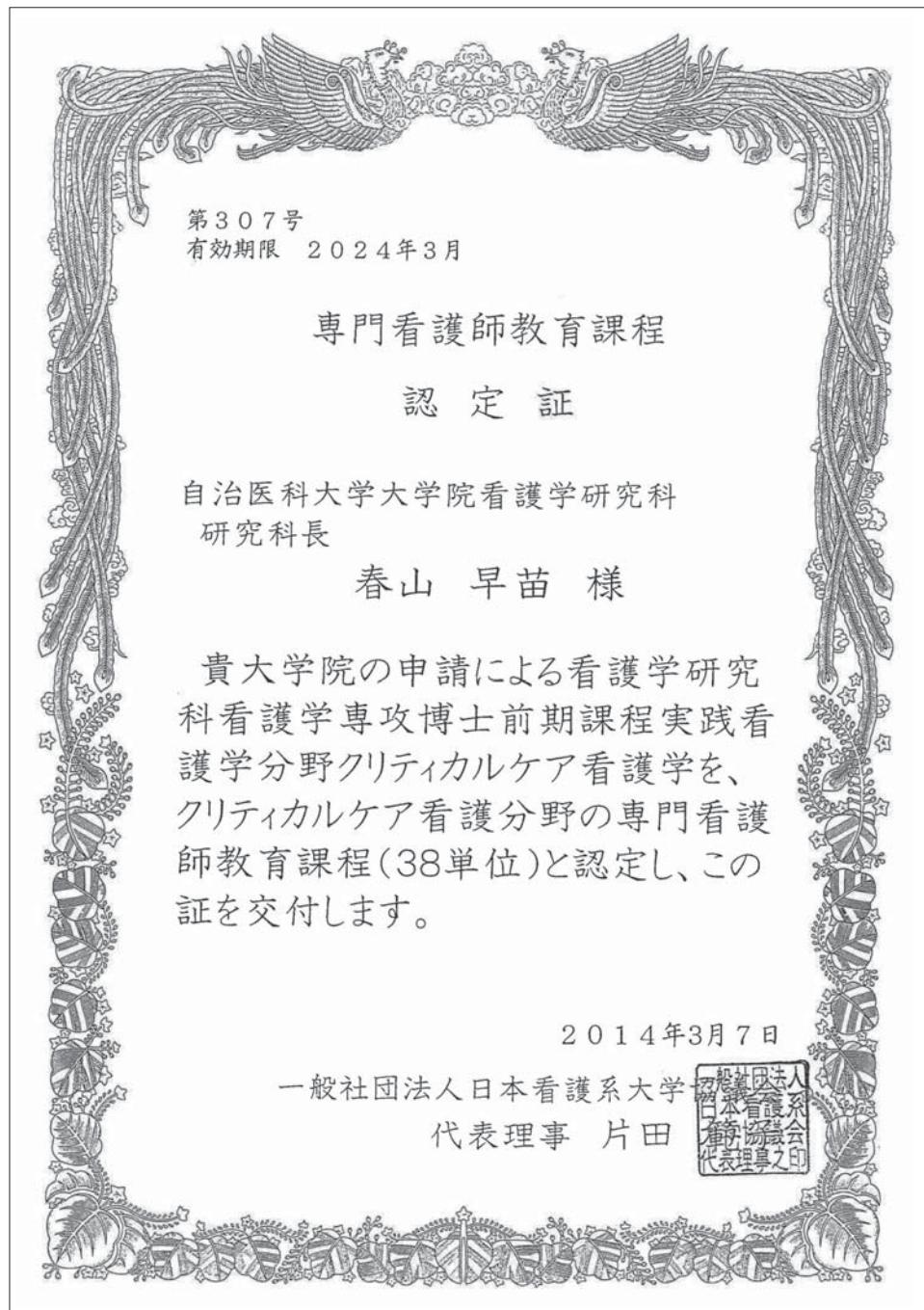


表2：②専門看護師スケジュール

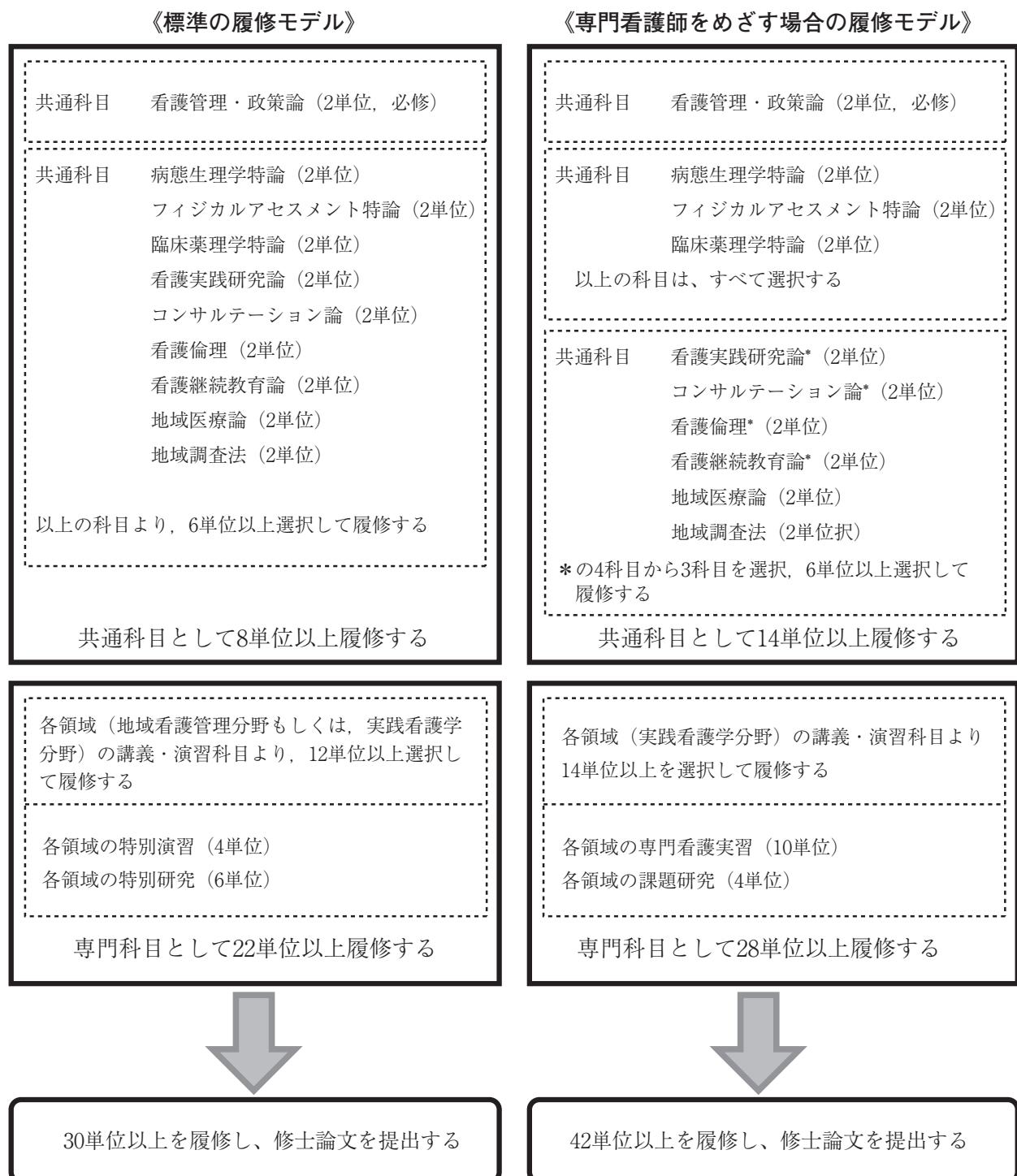
専門看護師(38単位)申請スケジュール表 作業分担

2012.11.02

	平成24年10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成25年4月	5月	6月	7月
専門看護師教育課程検討部会 カリキュラム検討部会	<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程の教育課程の方針と科目構成(案)をまとめる(38単位申請骨子) <p>①共通科目(授業科目名・単位数) ②専門科目(授業科目名・単位数)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程のCNS教育課程全体像(案)を検討部会で検討する ・共通科目A/Bの教育内容の具体的検討を検討部会で行う ・博士前期課程のCNS教育課程全体像(案)を検討部会で検討する ・共通科目・専門科目(授業内容・講師の決定) 								
幹事会・研究委員会										
各コース認定申請領域 ①がん看護専攻教育課程 ②母性看護専攻教育課程 ③小児看護専攻教育課程 ④精神看護専攻教育課程 ⑤クリティカルケア看護専攻 教育課程【教員担当業務内容】			<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程のCNS教育課程全体像(案)審議 ・共通科目A/Bの教育内容を審議 		<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程の教育課程(案)の承認 			<ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師教育課程申請内容の承認 		
専門看護師教育課程(38単位)申請 【事務担当業務内容】				<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師内諾後氏名等を事務に連絡 ・実習施設内諾後施設名等を事務に連絡 		<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者名簿等を事務に連絡 				
企画委員会等										

※ 平成25年度は申請内容に伴う「履修規程」及び「大学院学則」の一部改正に伴う手続きを行う

資料2：履修モデル



看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

本委員会の所管事項は下記のとおり

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
- (2)非常勤講師の選考に関する事項
- (3)その他学部長が必要と認めた事項

7	2月25日	・母性看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・小児看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について
8	3月25日	・母性看護学担当教員（助教）候補者の選考について ・平成26年度看護学部非常勤講師の任用（2人）について

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者（5名以上7名以内）

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山学部長	委員長
成田教務委員長	委員
大塚学生委員長	委員
本田F D委員長	委員
被選考教員の関連領域の教授等	委員
学部長が必要と認めた者（2名以内）	委員

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、表2のとおり人事委員会を開催した。

表2 2013年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月23日	・基礎看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について
2	7月16日	・精神看護学担当教員（助教）候補者の選考について ・小児看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について
3	10月15日	・平成25年度非常勤講師（1人）の授業科目追加について
4	11月19日	・学内教員の昇任（教授）選考について ・学内教員の昇任（講師）選考について ・平成25年度非常勤講師の追加任用（1人）について
5	12月24日	・平成26年度非常勤講師の任用（3人）について
6	1月21日	・成人看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・基礎看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・母性看護学担当教員（講師又は助教）候補者の選考について ・平成26年度看護学部非常勤講師の任用（11人）について

教務委員会

委員長 成田 伸

1. 所管事項

本委員会は、授業及び試験、単位及び課程の修了、学生の入学、退学、休学及び卒業等、学生の修学指導、授業関係の予算、その他学部長が必要と認めた事項を検討するために設置され、10名の委員で構成されている。

2. 委員会の構成

平成25年度より各学科目群より1名が代表として出席することとなり、准教授2名を加えた体制で構成した。構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
成田 伸 教授	委員長、助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当（主）、夏季へき地研修担当
永井 優子 教授	副委員長、実習調整担当（主）
中村 美鈴 教授	既修得単位認定（主）
野々山 未希子 教授	カリキュラム運用担当（副）
半澤 節子 教授	カリキュラム運用担当（主）
本田 芳香 教授	共通物品担当（主）
宮林 幸江 教授	授業関係予算担当（主）
渡邊 亮一 教授	時間割担当（主）、既修得単位認定担当
鈴木 久美子 准教授	夏季へき地研修担当（主）
横山 由美 准教授	カリキュラム運用担当

3. 活動内容

11回の委員会を開催した。委員会に先立って、各担当を中心として十分に事前検討し資料を作成し、委員会の実効性を高めた。

表2 平成25年度の審議事項

回	開催日	議題
1	平成25年4月11日	年間計画、平成25年度授業関係予算内示、平成25年度実習教育説明会、平成25年度附属病院における実習病棟および控室の調整結果、新入生オリエンテーション等
2	平成25年5月9日	既修得単位認定、下部組織年間計画、2年次後学期実習の学生配置、対象の理解実習の学生配置、平成26年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考等
3	平成25年6月13日	平成26年度共通物品・教室整備に係る予算、対象の理解実習の学生配置、2年次後学期実習の学生配置、各学年の実習終了時の評価を含む卒業時到達度評価、実習教育説明会の評価等
4	平成25年7月11日	平成26年度授業関係予算・教室整備に係る予算要求、2年次後学期実習の学生配置、2

		年次後学期実習の教員および臨床指導者の担当、夏季へき地研修の実施計画、各学年の実習終了時の評価を含む卒業時到達度評価（ポートフォリオ等）、共通物品管理办法等
5	平成25年9月12日	平成26年度学年暦・時間割モデル、平成26年度臨地実習配置、平成26年度附属病院看護学実習病棟希望調査結果、平成25年度2年次後学期実習の教員および臨床指導者の担当、看護実習ポートフォリオ、平成25年度3年次後学期実習学生配置表、平成25年度研究セミナー、平成26年度共通物品予算、教室整備に係る予算等
6	平成25年10月10日	平成26年度時間割モデル、共通物品貸借システム運用案、新カリキュラム説明会の開催および履修調べ、平成26年度教育支援者委嘱調査結果、平成26年度教室整備に係る予算要求、各看護実習における学生配置表等
7	平成25年11月14日	平成26年度科目責任者、新カリキュラム説明会の開催および履修調べ結果、夏季へき地研修報告、平成26年度実習教育説明会日程等
8	平成25年12月12日	平成26年度科目責任者、自治医科大学看護学部のポートフォリオ（案）、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー（案）、実習日数の確保、平成26年度総合実習の実習施設調整等
9	平成26年1月9日	平成26年度時間割モデル、平成26年度教育用消耗品、機器備品予算の内示、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、自治医科大学看護学部のポートフォリオ（案）、平成26年度科目等履修生開講授業科目・募集定員等、平成26年度附属病院における看護学実習病棟及び控室に関する調整結果、平成26年度実習教育説明会の企画、平成25年度附属病院における看護学実習結果等
10	平成26年2月13日	4学年単位取得・卒業認定、卒業時到達度評価、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、自治医科大学看護学部のポートフォリオとその周知、平成26年度附属病院における看護学実習病棟及び控室に関する調整結果、平成26年度3年次前学期実習学生配置、平成26年度実習教育説明会の実施計画案、平成26年度版共通実習要項、平成25年度臨床教授等の活動実績・平成26年度活動立案、平成26年度科目責任者等
11	平成26年3月13日	休学・退学・復学、単位取得、助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考試験の選考結果、平成26年度3年次前学期実習学生配置（最終案）、教務委員会下部組織活動報告、平成26年度教務委員会下部組織体制、4月オリエンテーション計画、平成26年度版自治医科大学看護学部実習要項、平成26年度看護トピックス、平成26年度看護総合セミナー・総合実習、平成26年度文献講読セミナーの担当教員、英語課外実施報告、臨床教員制度の現状報告について 成田委員長より、資料に基づき臨床教員制度の現状報告、臨床教授等の平成26年度活動計画等

学生委員会

委員長 大塚公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生のキャリア支援に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、キャリア支援担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
大塚公一郎 教授	委員長
野々山未希子 教授	副委員長 奨学生選考担当
中村 美鈴 教授	委員
宮林 幸江 教授	キャリア支援担当
里光やよい 准教授	奨学生選考担当
鈴木久美子 准教授	キャリア支援担当 学友会幹事
横山 由美 准教授	奨学生選考担当
千葉 理恵 講師	キャリア支援担当

表2 下部組織

氏名	役割
安藤 恵助 教	キャリア支援担当

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、平成25年度も、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

本学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は、本学部の看護学務

課、看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となってを行い、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学生の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学生、日本学生支援機構奨学生の選考・推薦を行った。

学生の将来の進路決定の支援は、キャリア支援担当が中心となって行った。25年6月3日に行われた附属病院による就職説明会とは別に、25年2月17日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのもの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者への指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

授業中、課外活動中に発生した傷害、疾病、器物損傷に対する保険として損害賠償責任事故保険「WILL」への学生の加入を促した。

通常の疾病に対する保険として自治医科大学学生健康保険組合（自治医科大学附属病院での加療に対して一人年間10万円まで給付されるものである）への学生の加入を促した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

近年の本学部生がかかわる交通事故の増加を顧みて、26年度学生便覧の車両関係の項目の改訂、補充を行い教授総会にて承認された。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。臨時の委員会が、2013年12

月に1回学生の処分に関連して開催された。

表3 平成25年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2013年4月4日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2013年5月9日	(1)看護学生寮防災訓練 (2)奨学金貸与申請 (3)学生自治会役員名簿 (4)キャリア支援関係
3	2013年6月6日	(1)学生寮防災訓練報告 (2)看護学部奨学金増額 (3)看護学部校舎防災訓練日程
4	2013年7月4日	(1)学部校舎防災訓練 (2)学生支援機構奨学金適格認定 (3)就職の学内推薦
5	2013年9月5日	(1)学部校舎防災訓練 (2)就職の学内推薦状況 (3)キャリア支援関係
6	2013年10月3日	(1)「将来のキャリアを考える会」の運営 (2)日本学生支援機構奨学金の学生へのオリエンテーション (3)学生の交通事故報告
7	2013年11月7日	(1)日本学生支援機構奨学金の学生へのオリエンテーション (2)就職・進路希望調査
8	2013年12月5日	(1)学長賞選考委員検討 (2)学部校舎防災訓練報告 (3)学生の交通事故処分
9	2014年1月9日	(1)卒業式送辞担当学生 (2)「将来のキャリアを考える会」計画 (3)1, 2年生キャリアガイダンス報告 (4)学生支援機構奨学生への対応 (5)「will」保険金額改定
10	2014年2月6日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推薦について (4)平成26年度キャリアガイダンス日程 (5)4年生進路決定届結果 (6)学生便覧26年度掲載原案（自動車・自転車関係） (7)学生支援機構奨学金貸与継続説明会実施報告
11	2014年3月6日	(1)「将来のキャリアを考える会」報告 (2)学生自治会、寮自治会懇談会報告 (3)平成26年度新入生懇談会、学生寮防災訓練日程 (4)学生便覧掲載原案（車両関係）

FD評価実施委員会

委員長 本田 芳香

1. 所管事項

FD評価実施委員会と研究推進委員会は、其々独立した委員会であるが、今年度より大学教員の教育・研究等の資質開発に関する委員会活動として同構成員で実施する。

本委員会の所轄事項は、以下の6点である。

- 1) 授業内容及び方法の評価に関する事項
- 2) 教員の資質開発に関する事項
- 3) 教員研修会の企画・実施に関する事項
- 4) 教育内容等の改善のための組織的取り組みに関する事項
- 5) 編集に関する事項
- 6) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に提示する。

下記に示す通り、授業評価WG、FD研究会WG、FDマップWGの3つのWGの下部組織より構成し担当者を配置した。なお研究推進委員会は同構成員メンバーで構成されている。

※ワーキンググループは、WGと記する。

表1 構成員と下部組織

氏名	役割
本田 芳香 教授	委員長
半澤 節子 教授	副委員長
野々山未希子 教授	授業評価
小原 泉 准教授	FD研究会
塚本 友栄 准教授	FD研究会、授業評価
浜端 賢次 准教授	FDマップ
平尾 溫司 講師	授業評価
飯塚 秀樹 講師	FDマップ、授業評価

3. 運営方針と活動内容

- 1) 各WGの運営方針は以下の通りである。

但し研究推進WGの運営方針は当該委員会に記載する。

- (1)授業評価WG：平成25年度版授業評価マニュアル（新）にそって授業評価が適切な運用方法を検討する。
 - (2)FD研究会WG：年2回のFD研究会及び若手教員を対象とした教育研修会を企画運営する。
 - (3)FDマップWG：FDマップ冊子を活用したFD評価方法の運用を引き続き検討する。
- 2) 活動内容：審議事項と活動内容は、表2に示す通りである。

す通りである。

表2 2013年度の審議事項と活動内容

回	月日	審議事項と活動内容
1	4月18日	運営方針、年間スケジュール提示
2	5月9日	各WGの年間スケジュール
3	6月20日	FD研究会企画
4	7月4日	授業評価
5	9月26日	第1回FD研究会
6	10月10日	平成25年度前期授業評価結果
7	11月7日	平成25年度授業評価
8	12月5日	若手教員による教育研修会
9	1月16日	FDマップ、若手教員による教育研修会
10	2月13日	第2回FD研究会 FDマップ活用による分析結果
11	3月13日	第2回FD研究会 平成25年度報告書作成

4. 活動内容に関する活動評価

本委員会の活動評価は、以下の通りである。

- 1) 授業評価WG：平成25年度版新マニュアルとともに総括評価として学生と教員による評価が十分に実施できるよう運用したことは評価できる。
- 2) FD研究会WG：本年度FD研究会のテーマは、実習教育における倫理教育に焦点を当てた。臨床教員も含め50名近い参加者が得られ、臨床倫理DVD教材を活用し活発な討議がなされたことは評価できる。新企画若手教員向けの教育研修会は講師、助教を中心として企画運営され、次年度に繋がる機会となったことも評価できる。
- 3) FDマップWG：大学教員としての資質を向上するため、FDマップを用いて各教員が自己点検と評価を行うことを目的に、各教員がFDマップを参考に自己目標に対する自己点検を行った。教員全員の分析結果から、次年度さらに検討すべき事項が明らかになったことが評価できる。

以上

研究推進委員会

委員長 本田 芳香

1. 所管事項

研究推進委員会とFD評価実施委員会は、其々独立した委員会であるが、今年度より大学教員の教育・研究等の資質開発に関連する委員会活動として同構成員で審議実施をした。

本委員会の所轄事項は、以下の4点である。

- 1) 看護職等との共同研究に関する事項
- 2) 研究活動評価に関する事項
- 3) 研究活動の充実、活性化に関する事項
- 4) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に提示する。

下記に示す通り、研究推進委員会は、FD評価実施委員会と同構成員メンバーであることから研究推進WGとして担当者3名を配置した。

※ワーキンググループは、WGと記する。

表1 構成員と下部組織

氏名	役割
本田 芳香 教授	委員長
半澤 節子 教授	副委員長
小原 泉 准教授	研究推進、FD研究会
浜端 賢次 准教授	研究推進、FDマップ
平尾 溫司 講師	研究推進、授業評価
野々山未希子 教授	授業評価
塚本 友栄 准教授	FD研究会、授業評価
飯塚 秀樹 講師	FDマップ、授業評価

3. 運営方針と活動内容

- 1) 研究推進WGの運営方針は以下の通りである。
看護学部教員の研究活動の充実と附属病院看護部との実践研究推進を目標とする。
 - (1)科研費獲得に向けた若手・研究スタートによる研究支援を推進する。
 - (2)研究活動の実質を促進する。
 - (3)実習病院との共同研究連携により実践研究をより可視化する。
 - (4)自治医大附属病院看護部研究ニーズを明らかにし、ニーズに対応した研究指導を行う
- 2) 活動内容
審議事項と活動内容は、表2に示す通りである。

表2 2013年度の審議事項と活動内容

回	月日	審議事項と活動内容
1	4月18日	運営方針、年間スケジュール提示
2	5月9日	WGの年間スケジュール 共同研究費申請
3	6月20日	共同研究費結果
4	7月4日	科研費獲得のための講習会
5	9月26日	平成24年度第1回看護部研究発表会
6	10月10日	看護部への研究支援方法検討
7	11月7日	看護部への研究支援案作成
8	12月5日	看護部への研究支援フォーマット作成
9	1月16日	平成25年度第2回看護部研究発表会
10	2月13日	平成25年度共同研究費執筆要領作成
11	3月13日	平成26年度共同研究費申請

4. 活動内容に関する活動評価

本委員会の活動評価は、以下の通りである。

- 1) 科研費の獲得に向けた講習会：科研費獲得に向けた若手・研究スタート教員支援として講習会を開催し13名の参加があり活発な質疑応答がなされたことは評価できる。
- 2) 共同研究連携による実践研究の可視化：今年度は申請14件と共同研究が活発に推進された結果、共同研究費執行状況は96%と前年度の81.2%と比較し大幅に改善されたことは評価できる。
- 3) 自治医大附属病院看護部への研究支援：「看護学部教員による看護研究支援申請書」を活用した研究支援のシステム化をおこなった結果、研究支援は6件あったことは評価できる。また附属病院看護研究発表会（年2回）に出席し、講評を行い、看護部との研究連携を強化したことは評価できる。
- 4) 他外部資金獲得：看護学関連の外部研究資金に関する情報探索と発信をおこない研究推進に向けた情報提供をおこなったことは評価できる。

以上

広報委員会

委員長 永井 優子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、広報誌、パンフレット等の作成及び発行に関する事項、ホームページの作成及び管理に関する事項、オープンキャンパスの実施に関する事項のほか、本看護学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。なお、各事項の担当組織を表2に示した。ホームページおよび進路説明会・模擬授業・指定校訪問調整は委員長が担当した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
永井 優子 教授	委員長
小原 泉 准教授	副委員長
角川 志穂 准教授	
飯塚 秀樹 講師	シーズ集掲載支援
川上 勝 講師	
小林 京子 講師	

表2 下部組織（○印責任者）

担当事項	担当者氏名
学部案内等	○小原副委員長・川上委員
ビタミンN	○飯塚委員・小林委員
オープンキャンパス	○永井委員長（企画）、 角川委員（学生配置、記念品）、 川上委員（配車・運行管理）、 小林委員（女子学生寮）

3. 活動内容

本年度は8月を除き毎月第2木曜日に定期的に計11回委員会を開催した。各回の審議事項は表3に示した。なお、企画広報課の職員がオブザーバーとして委員会に出席している。

看護学部パンフレット「Campus Guide2014」、看護学部広報紙「ビタミンN」を第10号記念と位置づけて4頁増やして総18頁とし、オープンキャンパス来場者にも配付するために発行部数を増やした。また、読者の反応を得るためにEメールによる意見募集を行ったが反応がなかったため、在校生の保護者の看護学部の広報活動に関するニーズを把握するために平成25年度卒業生の保護者へのアンケートを行った。

また、オープンキャンパスは計3回、同じ内容

で開催時期と時間を春半日（12:30～16:00）1回と夏全日（10:00～16:00）2回に整理して実施した。プログラムとして、従来から実施していた看護学部説明会（2回/半日、延べ10回）、模擬授業（半日単位で2回、延べ10回）、看護学部校舎内設備見学（自由見学および学生ツアー）、男女別学生寮見学ツアー、個別相談に加え、学生広場と保護者説明会（半日単位2回、延べ10回）、学生食堂の昼食（第2・3回、有料）を追加した。開催日程、プログラムと実施時間は本看護学部ホームページと日本看護系大学協議会の「大学で看護を学ぼう！キャンペーン」のWebサイトにも掲載した。第1回は本学附属病院で開催した「ふれあい看護体験（栃木県看護協会事業）」とあわせて5月25日（土）13:00～17:00に実施し、195名（前年度比以下同じ、+117名）が参加した。第2回は8月6（月）、第3回は8月17日（金）に開催し、第2回590名（+208名）、第2回392名（-11名）、合計1177名（+314名、+136.4%）が参加した。前年度比で生徒の参加は110.7%であったが、保護者は184.7%と急増した。

さらに、「大学で看護を学ぼう！キャンペーン」の一環として第1回オープンキャンパスと同日の10時30分から12時まで、看護学部校舎において「進路担当教諭のための自治医科大学看護学部進学説明会」を開催した。この事業の目的は、看護職を希望する生徒への進路指導担当教諭に、看護職およびその養成機関の現状と本看護学部の特色について周知し、本看護学部の正しい情報と魅力を伝達していただくことによって、優秀な受験生を増加させることを目標とした。内容は、大学における看護基礎教育と看護職のキャリア発展（教育内容、進路、学費、奨学金等の学生支援）、入学試験についての説明と、個別相談であった。栃木県を中心に茨城県、埼玉県、福島県の計4件から19校（うち11校は推薦指定校）の担当者が熱心に参加していた。

加えて、昨年度から実施している3年次看護学実習施設である下野市南河内第2中学校の体験学習は、対象生徒を1年次に変更して6月上旬金曜日14:00～16:00に2回にわけて実施した。生徒総数152名に広報委員長が健康教育を約1時間行い、後半1時間は本看護学部4年次学生94名の協力を得て交流を行った。基礎看護学、精神看護学、地域看護学の助教が学生のサポートにあたった。

以上のほか、進路説明会には計16会場に参加し、模擬授業として依頼4校すべてに各1名の教員を派遣した。また、ホームページの更新をし、企業による広報関係セミナーに委員等が出席し、学生募集に関する傾向と対策について情報を得た。さらに、すべての教職員が広報活動を担えるように「広報マニュアル」を作成し、広報活動で利用できるパワーポイント等の資料作成をした。6月には大学生調査研究プログラム新入生調査（JFS2013）に協力し、新入生54.6%から回答を得て、高校時代の学習行動や生活高度、大学への適応状況等の分析結果について広報活動の資料とともに、1年次学生全員に結果の概略を配付した。

表3 平成25年度広報委員会日程および審議事項

回	日程	行事名・審議事項
	4月1日(月) 4月11日(木) 12:10~12:45 16:20~16:30	2・3・4年生広報委員会関連ガイダンス 全学年オープンキャンパス学生募集説明会 1年生広報委員会関連ガイダンス
1	4月11日(木) 17:00~18:35	1. 平成25年度活動内容・計画・役割分担の決定 2. 第1回オープンキャンパスおよび進路担当教諭への説明会の実施（案） 3. 「Campus Guide 2014」進捗状況報告 4. 「看護学部ムービー」進捗状況報告 5. 「ビタミンN」第10号進捗状況報告
2	5月9日(木) 17:00~18:05	1. オープンキャンパス実施計画（案） 2. 進路担当教諭への説明会実施計画（案） 3. 南河内第2中学校体験学習実施計画（案） 4. 看護学部広報活動担当者マニュアル（案） 5. 各担当の進捗状況の報告 6. 平成25年度に新入生ホームページに関するアンケート集計結果の報告
	5月25日(土)	午前 高等学校進路指導担当教諭等への進学説明会 午後 第1回オープンキャンパス
3	6月13日(木) 16:30~17:45	1. 高等学校進路指導担当教員等への進学説明会実施結果と評価 2. 第1回オープンキャンパス実施結果および評価 3. 第2・3回オープンキャンパス実施計画（案） 4. 下野市南河内第二中学校体験学習実施計画（案） 5. 新入生および保護者アンケート集計結果と分析

		6. 看護学部広報活動担当者マニュアルについて 7. 各担当の進捗状況の報告
	6月21日(土)	下野市南河内第2中学校体験学習 1回目
	6月28日(土)	下野市南河内第2中学校体験学習 2回目
	7月10日(水)	ビタミンN第10号発行予定
4	7月11日(木) 17:00~17:50	1. 第2・3回オープンキャンパス最終調整案 2. 平成26年度予算案の検討 3. 「進研アド2013年度 Between セミナー」参加報告
	7月30日(火)	第2回オープンキャンパス
	8月23日(火)	第3回オープンキャンパス
5	9月12日(木) 16:00~16:50	1. オープンキャンパス実施評価 2. 各担当の進捗状況の報告 3. 進学説明会の今後の予定の確認 4. 「リクルート北関東信越大学募集戦略セミナー」の参加者の検討 5. 下野市南河内第二中学校体験学習責任教員との評価会議の結果
6	10月10日(木) 16:00~16:55	1. 「ビタミンN」第10号の評価 2. 平成26年度オープンキャンパス実施計画（案） 3. 「リクルート北関東信越大学募集戦略セミナー」参加報告 4. 「Campus Guide 2015」作成業者のメール審議について 5. 看護学部ムービー2013の字幕修正について 6. 水城高等学校進学説明会の参加教員の検討
7	11月14日(木) 16:05~16:55	1. 「ビタミンN」第11号の企画・編集方針（案） 2. 「Campus Guide 2015」作成業者の選定について 3. 平成26年度オープンキャンパス・高等学校進路指導教諭への説明会の実施日程について 4. 進学相談等企画会社への申し入れに関する報告 5. 鹿沼東高校進学説明会、新宿セミナーさいたま会場、「進研アドBetweenセミナー」の参加者の調整
8	12月12日(木) 16:00~16:55	1. 「Campus Guide 2015」の構成（案） 2. 「株マイナビ」、「リクルート社」等の学生の協力について 3. 「ビタミンN」第11号の編集方針（案）について 4. 平成26年度オープンキャンパスの企画（案） 5. 高等学校進路指導担当教諭への説明会について 6. 「進研アドBetweenセミナー」の参加報告

		7. 新宿セミナー、宇都宮中央女子高校の進学説明会の担当者の調整
9	平成26年 1月9日（木） 16:00~17:10	1. 「Campus Guide 2015」構成・写真撮影・執筆者の決定 2. 「ビタミンN」第11号の構成・執筆者の決定 3. 平成26年度オープンキャンパス企画（案） 4. JFS2013新入生調査の結果について 5. 平成26年度の乳井関係募集活動計画と広報関係予算内示の報告
10	2月13日（木） 16:00~17:10	1. 看護学部ホームページ英語版について 2. 「ビタミンN」第11号執筆依頼について 3. 平成26年度オープンキャンパス学生募集・配置計画について 4. 平成26年度下野市南河内第二中学校体験学習の実施日程について 5. ホームページアンケート（案）について 6. 「Campus Guide 2015」進捗状況の報告について 7. 平成25年度卒業生の保護者に対するアンケートの実施について 8. 進学説明会の担当教員の決定
11	3月13日（木） 16:00~17:00	1. 平成26年度広報活動の実施評価について 2. 各担当の進捗状況の報告・検討 3. その他

ゴチック体は広報委員会行事を示す。

編集委員会

委員長 中村 美鈴

1. 所管事項

編集委員会は常設委員会であり、所管事項は自治医科大学看護学部委員会規程集より1. 看護学ジャーナルの編集、刊行に関する事項、2. 年報の編集、刊行に関する事項、3. その他学部長が必要と認めた事項と定められている。

2. 委員会の構成

構成委員は6名で、表1に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
中村 美鈴 教授	委員長
大塚公一郎 教授	副委員長
鈴木久美子 准教授	委員
角川 志穂 准教授	委員
横山 由美 准教授	委員
平尾 溫司 講師	委員
加納 秀樹 課長	事務局

3. 活動内容

平成25年度は、活動目標を「看護学ジャーナルの論文の質・量ともに向上するための取り組みを行う。」とし、1. 論文投稿と査読のやり取りをスリム化に向けて、通年の論文投稿、さらにメールによる論文投稿（パスワード付き）、PDFファイルによる査読者とのやり取り（パスワード付き）を可能とし、そのことをアピールしていく。学内共同研究費助成後の論文投稿、修士論文等の投稿を積極的に呼び掛けに力を注ぎ、論文数8本の掲載に至った。

また、2. 採択される論文となるための、仕組みつくりを検討した。具体的には、査読者は、査読基準に沿って、どのように修整したら採択されるのかといった教育的配慮に基づいたコメントを記載し、投稿者はそのコメントを真摯に受け止め、品位をもって回答するよう働きかける。今後、FD委員会との共催で、若手研究者を対象に、採択されるための論文投稿について研修会等の企画を検討したが、25年度は実現には至らなかった。

具体的な活動として、表2に示すような議題で計6回の委員会開催と、自治医科大学看護学ジャーナル（第10巻）ならびに自治医科大学看護学部年報（第11号）・大学院看護学研究科年報（第7号）の刊行を紙媒

体に戻して行った。

24年度からの課題と解決策として、次の取り組みを行った。

年報については、提出期限は概ね守られ、順調に遂行した。教育・研究分野報告における記載内容のスリム化、さらに業績を記載するフォーマットを新たに構築したことは、研究業績関連の分類が明確になり良かったため、所定の様式で25年度も依頼した。

看護学ジャーナルについては、論文の質をさらに上げるために、投稿論文に対する査読基準の詳細をチェックリスト方式で示し、その基準に整合する内容を査読者が、教育的配慮のもと明解なコメントを記載できるよう周知していった。他、査読者に対する回答書の書き方（マナー）について周知をしていった。

一方、専任査読員制度は廃止し、従来通り、次年度の査読委員について、教授及び准教授は必ず任命することとし、必要に応じて講師も査読委員とする。看護基礎科学等から投稿があった場合、専門性の差異等から看護学部のみでは対応できない可能性があるため、外部者に査読を依頼するという枠（仕組み）は残した。

さらに、投稿論文の質と量の向上を目指し、若手研究者ならびに大学院生に働きかけていた。随時、論文投稿が可能である旨を周知していき、10本のエントリーがあり、最終的には8本の学術論文が掲載された。多くの投稿に感謝申し上げる。

他、投稿・査読のオンライン化等の効率化について、費用対効果等を鑑み、25年度の主題であったが、医学部同様、メールでの投稿（パスワード付き）を認めるとした。また、査読者に対してはPDFファイル（パスワード付き）で渡し、希望があれば紙媒体でも渡すこととした。

表2 2012年度の審議事項

回	開催日	議題
1	2013年4月18日	・委員会の役割と平成25年度編集委員会の方針、活動目標について ・平成25年度編集委員会年間スケジュールについて ・自治医科大学看護学ジャーナル（第11巻）の編集について ・自治医科大学看護学部年報（第11号）・大学院看護学研究科年報（第7号）「平成24年度」の編集について

		・平成25年度投稿論文の編集担当員と査読者の決定について
2	2013年5月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・専任査読制度について ・年報に記載する研究概要について
3	2013年10月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文数について ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文の査読員の決定について ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文査読スケジュールについて
4	2013年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文の第1回査読結果と論文審査について ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文の通年受付について ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文査読依頼文の内容について
5	2013年12月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文の第2回査読結果と論文審査について ・看護学ジャーナル論（第11巻）文投稿規程及び投稿審査規程の改正について
6	2014年2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学ジャーナル（第11巻）投稿論文の採否と原稿の種類の決定について ・看護学ジャーナル（第11巻）の目次について

国家試験対策委員会

委員長 渡邊 亮一

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学生や卒業生が国家試験に合格するように、学習環境を整え、学習相談などの支援を行うことである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。また、本委員会の下部組織として設置されたワーキンググループの構成員を表2に示す。委員会活動は、委員会の委員とワーキンググループの委員とが協力して行った。

表1 委員会の構成員と役割

氏名	役割
渡邊 亮一 教授	委員長
里光 やよい 准教授	副委員長
大脇 淳子 准教授	委員
北田 志郎 准教授	委員
浜端 賢次 准教授	委員

表2 ワーキンググループの構成員

氏名	役割
岩永 麻衣子 助教	委員
黒尾 純子 助教	委員
小池 純子 助教	委員
島田 裕子 助教	委員
段ノ上 秀雄 助教	委員

3. 活動内容

本年度は、表3に示すような議題で計8回の委員会を開催した。

委員会の具体的な活動としては、まず国家試験受験に向けてのガイダンスを3回実施した。また、これ以外に、3年生を対象にガイダンスを1回実施した。次に、国家試験対策のための模擬試験を、保健師については2回、助産師については2回、看護師については3回実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて、学生の個別面接・指導を行った。個別面接・指導は、学生を5グループに分け、それぞれのグループを本委員会の委員1名とワーキンググループの委員1名とがペアを組んで担当することとし、学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また、国家試験出題科目を担当する他の教員にも協力を要請し、2013年9月およ

び2013年12月から2014年1月にかけて、国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備については、学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに、受験参考書や問題集を置き、学生がいつでも利用できるようにした。また、業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパンフレットを置き、学生が国家試験に備えるための便宜を図った。

2013年度の国家試験は、助産師が2014年2月13日（木）に、保健師が2014年2月14日（金）に、看護師が2014年2月16日（日）に実施され、その結果は表4に示すとおりであった。2013年度の全国平均の合格率は、保健師が86.5%、助産師が96.9%、看護師が89.6%であった。本学部は、助産師の合格率が全国平均を下回ったが、保健師と看護師の合格率は全国平均を大きく上回った。次年度以降も高い合格率を維持できるように、引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3 2013年度の審議事項

回	開催日	議題
1	2013年4月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の紹介 ・所管事項について ・年間スケジュールについて ・4年生に対する国家試験対策ガイダンスの報告 ・低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果について ・担当学生の個別面接の実施について ・国家試験対策模擬試験のマニュアルについて ・国家試験対策ゼミについて
2	5月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師国家試験出題基準（平成26年度版）の改定について ・国家試験対策ゼミの開始時期について ・国家試験模擬試験実施マニュアルについて ・国家試験対策必修問題模擬試験について ・保健師助産師看護師国家試験問題の公募について ・担当学生の個別面接の経過または結果の報告
3	7月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回看護師国家試験模擬試験の実施状況ならびに結果について ・4年生に対する国家試験対策ガイダンスについて

		<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師国家試験Web公募システムについて ・9月に実施する国家試験対策ゼミの予定について ・担当学生の近況報告
4	9月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・看護師国家試験の施行（官報）について ・国家試験受験説明会の日程について ・保健師助産師看護師国家試験問題の作成状況について ・国家試験対策ゼミ、国家試験対策模擬試験日程等について ・担当学生の近況について
5	11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験模擬試験の受験状況について ・国家試験出願手続説明会等の開催結果について ・3年生に対する国家試験ガイドについて ・国家試験対策ゼミについて ・担当学生の近況について
6	12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の結果（成績）について ・今後の模擬試験の予定について ・国家試験対策ゼミについて ・担当学生の近況について
7	2014年1月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の結果（成績）について ・国家試験対策についてのアンケート調査について ・次年度に向けた国家試験対策推薦図書について ・担当学生の近況について
8	3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・第100回保健師・第97回助産師・第103回看護師国家試験の合格発表について ・国家試験対策に関するアンケート調査の集計結果について ・次年度に向けた国家試験対策推薦参考図書リストについて ・次年度の国家試験対策委員会への申し送り事項について

表4 2013年度保健師助産師看護師国家試験の結果

区分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
自治医科大学 看護学部	保健師	115	111	96.5
	助産師	8	7	87.5
	看護師	115	110	95.7
全国	保健師	17,308	14,970	86.5
	助産師	2,079	2,015	96.9
	看護師	59,725	53,495	89.6

臨地実習指導研修委員会

委員長 半澤 節子

1. 所管事項

平成18年度に第1回目の臨地実習指導研修会を開催し、平成25年度で8回目の開催となっている。本委員会は、本研修会を企画、実施、評価と一連の業務を担当している。

本研修会の目的は、自治医科大学看護学部の教育の理念を踏まえ、臨地実習の場において教員と臨地実習指導者が相互理解を深め、協力して一貫した指導を提供できることとしている。そのため、以下の3つの目標を設定している。

- ① 本看護学部の教育理念に基づいた看護学実習の目的、目標を理解する。
- ② 本看護学部の学生の特徴を踏まえた臨地実習指導について考える。
- ③ 臨地実習の場における教育支援方法について考える。

受講対象者は、①看護師免許取得後3年以上の看護実務経験を有する、②現在看護学部の臨地実習を行う施設に勤務している、③研修の全日程に参加可能という3つの条件を満たす者としている。

本研修会は2日間のプログラムにより構成されている。両日ともに午前の講義、午後のグループワークとなっており、グループワークでは、臨地実習指導に際して起こりやすい状況設定についてディスカッションするなど、実践的な内容のプログラムとしている。なお、本研修会を受講した参加者には、修了証を授与している。

2. 委員会の構成（構成員と役割）

半澤 節子	教 授	委員長
村上 礼子	准教授	副委員長
大脇 淳子	准教授	
清水 みどり	講 師	
湯山 美杉	助 教	
樅山 定美	助 教	

事務局 看護総務課
大石課長補佐、富川主事、角田

3. 活動内容

本委員会は、研修会の企画、実施、評価の一連の業務を進めるため、年5回の委員会を開催した。

平成25年度の臨床実習指導研修会参加者は75人であり、内訳は、附属病院62人、とちぎ子ども医療センター9人、さいたま医療センター2人、外部実習施設2人となっていた。臨地実習指導の経験の有無では、「あり」が21人（28%）、「なし」が54人（72%）と、今後実習指導を予定している者が多くを占めた。

4. 定例会における議題

第1回定例会（平成25年4月23日）

- 1) 年間計画の検討
- 2) 研修会の案内、申込み方法について
- 3) プログラムについて
- 4) 委員の役割分担について
- 5) 修了認定について

第2回定例会（平成25年8月6日）

- 1) アンケートについて
- 2) 当日の役割分担
- 3) プログラムについて
- 4) 参加者の申込み状況

第3回定例会（平成25年9月18日）

- 1) 参加者の内訳
- 2) アンケートの集計結果
- 3) 研修会当日の担当者からの報告
- 4) 次年度の課題の検討

第4回定例会（平成25年10月15日）

- 1) 平成26年度マニュアルについて
- 2) プログラムについて
- 3) 事前準備計画について
- 4) 役割分担について

第5回定例会（平成26年2月18日）

- 1) 平成26年度プログラムについて
- 2) マニュアルについて
- 3) 附属病院看護部の講師候補者について

5. 次年度の課題

アンケートの結果、参加者の評価は良好である。学内講師、附属病院看護部からの講師とともに、臨地実習の具体的な話題に基づき、参加者の主体的な検討を促す展開がされていた。

次年度も、引き続き、講義、グループワークとともに充実を目指して企画、実施、評価を行う。

入試実施委員会

委員長 渡邊 亮一

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、入学試験実施に関する事項であり、具体的には、入試実施説明会に関する事項、入試実施日の役割分担・実施手順に関する事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は、表1のとおりである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
渡邊 亮一 教授	委員長
横山 由美 准教授	副委員長
大塚公一郎 教授	委員
成田 伸 教授	委員
塚本 友栄 准教授	委員
村上 札子 准教授	委員

3. 活動内容

本年度は、表2に示すような議題で計3回の委員会を開催した。

第1回の委員会では、2013年度の本学部の入学試験の日程を確認し、それに併せて入試実施マニュアルを作成し、入試実施説明会を開催することを確認した。

第2回の委員会では、推薦入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い、問題がないことを確認した。作成した推薦入学試験実施マニュアルを用いて、2013年11月7日（木）に入試実施説明会を開催し、推薦入学試験を11月16日（土）に実施した。

第3回の委員会では、一般入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い、問題がないことを確認した。作成した一般入学試験実施マニュアルを用いて、2014年1月23日（木）に入試実施説明会を開催し、一般入学試験（一次試験）を2月1日（土）に、一般入学試験（二次試験）を2月8日（日）に開催した。

入試実施マニュアルを作成して入試実施説明会を開催し、準備を行ったので、推薦入学試験、一般入学試験とも、おおむね支障なく実施できたが、今後の課題が1～2点明らかとなつた。

ひとつは、降雪等により入試の実施が困難と

なった場合や、交通機関の影響により多くの受験生が試験開始時刻に間に合わないといった場合の対応である。もうひとつは、入試日がインフルエンザ等の流行期にあたり、感染の疑いがある受験者がいると想定される場合である。いずれも、入学試験における危機管理の問題であるが、次年度に向けて対応を検討しておく必要がある。

表2 2013年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2013年4月30日	・入試実施委員会の委員等の構成について ・入試実施委員会の所管事項について ・平成26年度看護学部入学試験の日程について ・平成26年度入試実施マニュアルについて
2	10月24日	・平成26年度推薦入学試験実施マニュアルについて
3	2014年1月15日	・平成26年度一般選抜入学試験実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学、休学、退学、転学、転入学、除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長、専攻分野主任教授、研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山 早苗	委員長（研究科長）※
中村 美鈴	委員（幹事長）※※
大塚 公一郎	委員
永井 優子	委員
成田 伸	委員
野々山未希子	委員
半澤 節子	委員
本田 芳香	委員
宮林 幸江	委員
渡邊 亮一	委員

※地域看護管理学分野主任兼ねる

※※実践看護学分野、広域実践看護学分野主任兼ねる

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により、看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため、表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2013年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	5月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度大学院非常勤教員の任用について ・平成25年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定について ・既修得単位の認定について ・平成25年度看護学研究科ティーチングアシスタントの追加決定について ・看護学研究科修了生のフォローアップ研修会の実施計画について

2	7月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・退学願について ・専門看護師（38単位）申請について ・大学院看護学研究科F D研究会等について ・平成26年度看護学研究科出願資格認定試験及び入学試験の実施要領（案）について
3	9月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学願について ・平成26年度看護学研究科出願資格認定試験合否判定について ・平成26年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験実施について ・平成25年度看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員について ・大学院教員任用について ・大学院非常勤教員任用について ・研究指導教員について ・学位論文作成要領の変更（案）について ・看護学研究科博士後期課程学位論文審査基準（案）について
4	10月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験合否判定について ・平成25年度看護学研究科科目等履修生単位取得（前期課程）認定について ・平成25年度看護学研究科第3回合同研究セミナーについて ・平成26年度看護学研究科（博士前期課程）科目等履修生開講科目及び時間割について ・平成26年度看護学研究科（博士前期課程）時間割について ・平成26年度看護学研究科（博士前期課程）科目等履修生募集要項について
⑤	10月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度博士前期課程入学試験2次募集の実施について
6	12月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について ・平成26年度看護学研究科科目責任者の決定について
7	1月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度看護学研究科（博士前期課程）論文審査実施要領について ・平成26年度看護学研究科博士前期課程（2次募集）入学試験について ・平成26年度看護学研究倫理審査委員会日程について ・平成26年度看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程について ・平成27年度看護学研究科入学試験日程について

		<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度看護学研究科科目等履修生募集日程について ・平成26年度看護学研究科学年曆について ・平成26年度教育課程の変更について（学則一部変更手続き） ・平成26年度授業科目責任者の決定について 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度大学院看護学研究科非常勤講師任用について ・研究計画審査について
8	2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度論文審査（口頭試問）の結果について ・平成25年度学位論文発表会スケジュールについて ・平成26年度科目等履修生の決定について ・看護学研究科ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーについて 	⑫ 3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院教員任用について
9	2月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度看護学研究科修士（看護学）学位論文審査最終試験の判定について ・看護学研究科ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについて 	⑬ 3月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度非常勤講師科目追加の任用について
10	2月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験合否判定について ・平成26年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験（2次募集）合否判定について ・平成25年度看護学研究科（博士前期・後期課程）修得単位の認定について ・平成25年度看護学研究科（博士前期課程）修了判定について ・平成25年度看護学研究科科目等履修生の単位修得（後期履修）について ・大学院要綱について 		
11	3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・退学願について ・平成25年度大学院看護学研究科博士後期課程修得単位（追加）について ・科目等履修生募集日程について ・平成26年度看護学研究科入学生の研究指導教員の決定について ・平成26年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について ・平成26年度看護学研究科博士（看護学）学位申請日程について ・平成26年度看護学研究科委員会議事日程について ・平成26年度看護学研究科運営組織について ・平成26年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて 		

研究科委員会幹事会

幹事長 中村 美鈴

1. 所管事項

- 研究科委員会幹事会は、以下の内容を審議することが幹事会運営内規で定められている。
- (1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
 - (2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
 - (3)その他大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2. 委員会の構成

構成委員は、表1に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏名	役割
中村 美鈴 教授	幹事長
永井 優子 教授	委員
成田 伸 教授	委員
本田 芳香 教授	委員
春山 早苗 研究科長	オブザーバー

3. 活動内容

平成25年度は、表2に示すような議題で計10回の研究科委員会幹事会を開催した。博士後期課程に関する事項の一部も検討した。主な内容は、38単位専門看護師教育課程の資格審査にすべての領域は合格でき、その開設に向けての学生便覧の作成、入学試験に関する事項、パンフレット作製、授業科目の時間割、担当教員の決定などを検討し、実際にその計画を遂行した。

表2 平成25年度 大学院看護学研究科委員会幹事会 審議事項

No.	日時	議題
1	4月23日(火) 14:40~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度看護学研究科委員会幹事会 審議事項の決定について 2. 平成25年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定について 3. 平成25年度看護学研究科ティーチングアシスタントの追加決定について 4. 平成25年度合同研究セミナーについて 5. 専門看護師教育課程の修了生フォローアップ研修会の実施計画について

		<ol style="list-style-type: none"> 6. 平成26年度看護学研究科出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項について 7. 平成25年度看護学研究科博士課程説明会の実施について
2	5月21日(火) 14:40~	<p><報告事項></p> <p>専門看護師教育課程（38単位）申請について</p>
3	6月25日(火) 14:40~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度看護学研究科博士課程説明会の実施について 2. 平成25年度看護学研究科出願資格認定試験ならびに入学試験の実施要領（案）について 3. 大学院看護学研究科FD研究会について
4	7月23日(火) 14:40~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了生フォローアップ研修会について 2. 平成26年度大学院看護学研究科（博士前期課程）入学試験のマニュアルについて 3. 平成26年度大学院看護学研究科予算（案）について
5	9月24日(火) 14:00~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成26年度大学院看護学研究科科目等履修開講科目について 2. 平成25年度看護学研究科科目等履修生単位修得（前期課程）認定について 3. 平成25年度大学院看護学研究科ティーチングアシスタントの追加申請の承認について 4. 平成25年度第3回合同研究セミナーについて
6	10月21日(月) 14:00~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について
7	11月19日(火) 14:00~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成26年度看護学研究科科目責任者（博士前期・博士後期課程）の決定について 2. 平成26年度看護学研究科時間割について
8	12月24日(火) 14:00~	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度看護学研究科（博士前期課程）論文審査実施要領について 2. 平成26年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験のマニュアル実施について 3. 平成26年度倫理審査委員会日程について 4. 平成26年度看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程について 5. 平成27年度看護学研究科入学試験日程について 6. 平成27年度科目等履修生の入学試験日程について 7. 平成27年度看護学研究科科目等履修生の募集日程等について

		<ul style="list-style-type: none"> 8. 平成26年度看護学研究科学年歴について 9. 平成26年度教育課程の変更について（学則一部変更手続き） 10. 平成26年度広報活動について
9	1月21日(火) 14:00~	<ul style="list-style-type: none"> 1. 平成26年度以降の博士前期課程における教育課程について 2. 平成25年度論文審査（口頭試問）の結果について 3. 平成25年度学位論文発表会スケジュールについて 4. 平成26年度科目等履修生の決定について 5. 平成26年度大学院教員任用について 6. 平成26年度大学院非常勤教員任用について
10	2月25日(火) 14:00~	<ul style="list-style-type: none"> 1. 平成26年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて 2. 平成26年度看護学研究科入学生の研究指導教員の決定について 3. 平成26年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について 4. 平成26年度看護学研究科修士（看護学）学位申請日程について 5. 平成26年度看護学研究科委員会議事日程について

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 渡邊 亮一

1. スタッフの紹介

教授 渡邊 亮一

教授 大塚 公一郎

准教授 北田 志郎（2013年4月1日着任）

取得資格：博士（医学・自治医科大学）・精神保健指定医

学歴：東北大学医学部

職歴：あおぞら診療所副院長を経て着任

講師 飯塚 秀樹

講師 平尾 温司

2. 教育の概要

1) 看護基礎科学に関する教育概要

(1)情報学（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(2)統計学（2年次前学期1単位：必修）

科目責任者である渡邊が15時間を担当して講義を行った。

(3)統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(4)心理学（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

(5)人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が5時間、高村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が10時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(6)哲学（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が15時間を担当して講義を行った。

(7)倫理学（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である大塚が15時間を担当して講義を行った。

(8)文化人類学入門（1・4年次後学期2単位：選択）

科目分担者である渡部圭一非常勤講師（早稲田大学人間科学部教員）が10時間、砂井紫里非常勤講師（早稲田大学人間科学部教員）が10時間、科目責任者である大塚が10時間を担当して講義を行った。

(9)病態学概論（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

(10)病態学各論（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

(11)臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である北田が7時間、紺野 啓非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間、松浦克彦非常勤講師（本学さいたま医療センター講師）が2時間、菊地 透非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

(12)基礎英語（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(13)医療英語コミュニケーション（1・2年次後学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(14)医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）

科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(15)人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が30時間を担当して講義を行った。

(16)人体の構造と機能Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が22時間、野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が4時間、加藤一夫非常勤講師（本学医学部准教授）が8時間を担当して講義および実習を行った。

(17)免疫学（1年次後学期2単位：必修）

滝 龍雄非常勤講師（北里大学准教授）が18時間、補助科目責任者である平尾が12時間を担当して講義を行った。

2) 看護基礎科学以外の担当教育概要

(1)国際看護論（4年次前学期1単位：必修）

飯塚は、2時間の講義を担当した。

(2)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）

渡邊、大塚、北田は、それぞれ30時間の演習を担当した。

(3)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

渡邊、飯塚はそれぞれ2時間の講義を、飯塚、

平尾はそれぞれ18時間の演習を担当した。

(4)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

渡邊は、2時間の講義を担当した。

(5)対象の理解実習（1年次後学期2単位：必修）

渡邊、大塚、北田、飯塚、平尾は、それぞれ4時間の演習を担当した。

(6)公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）

渡邊、大塚、北田、飯塚、平尾は、それぞれ6時間の演習を担当した。

(7)大塚は、本学医学部3年生を対象に、2時間の社会精神医学の系統講義を行った。

(8)大塚は、本学医学部4年生を対象に、精神科臨床実習クルーズ「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。

(9)平尾は、本学医学部2年生を対象に、96時間の解剖学実習を担当した。

(10)平尾は、本学医学部2年生を対象に、12時間の神経解剖学実習を担当した。

3. 研究の概要

(1)医療情報技師の育成に関する研究

渡邊は、一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会が認定する資格である「医療情報技師」および「上級医療情報技師」の育成にかかわっているが、そのなかで「上級医療情報技師」の育成制度や資格制度に関連した研究を行った。

(2)日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援

大塚は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「レジリエントなコミュニティ形成をめざして－在日ブラジル人の震災経験を踏まえた支援の検討－」（研究代表者：野崎章子 千葉大学）の分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(3)日系ブラジル人の社会精神医学的研究

大塚は、本学附属病院精神科において、日系ブラジル人を中心とした外国人患者の診療にあたるとともに、彼らを対象とした多文化間精神医学的調査、精神病理学的研究を行った。

(4)腎透析患者の精神障害、腎移植ドナーのメンタルヘルスについての研究

大塚は、本学附属病院腎臓センター外科部門の依頼のもと、同病院精神科医師である菅原一晃とともに生体腎移植のドナー候補者の意思決定を確認するための面接を行うとともに、附属病院精神科外来で透析患者の診療にあたった。以上の診療

にもとづきサイコネフロロジーの研究を行った。

(5)非定型精神病の精神病理学的研究

大塚は、非定型精神病の精神病理学的、病跡学的、精神医学史的研究を行った。

(6)在宅医療における精神障害者へのケアに関する研究

北田は、在宅医療における身体合併症を持つ精神障害者へのケアに関する研究を行った。

(7)在宅医療における東アジア伝統医学の位置づけに関する研究

北田は、在宅医療における東アジア伝統医学、特に漢方薬治療の位置づけと効果に関する研究を行った。

(8)在宅医療における医療－介護連携に関する研究

北田は、認知症グループホームへの訪問診療を通じて医療・介護連携に関する研究を行った。

(9)逐次通訳アプローチによる外国語指導法の効果とその汎用性の確立にむけた基礎的研究

飯塚は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による課題研究「逐次通訳アプローチによる外国語指導法の効果とその汎用性の確立にむけた基礎的研究」の研究代表者として、同研究を実施した。

4. その他

(1)渡邊は、平成24年度に引き続いだ、財団法人日本医療機能評価機構の評価調査者として、第三者病院機能評価事業に参画した。

(2)渡邊は、日本医療福祉設備学会理事ならびに総務委員会委員長、日本医療情報学会理事・評議員ならびに利益相反委員会委員長、日本診療情報管理学会評議員などを務めた。

(3)渡邊は、第39回日本診療情報管理学会学術大会において、一般演題と学生セッションの座長を務めた。

(4)渡邊は、第33回医療情報学連合大会（第14回日本医療情報学会学術大会）のプログラム委員を務めた。

(5)渡邊は、非常勤講師として、女子栄養大学栄養学部保健栄養学科の「情報科学概論」の講義（30時間）を、一般社団法人南埼玉都市医師会久喜看護専門学校の「看護学概論Ⅲ（看護研究）」の講義および演習（30時間）を担当した。

(6)大塚は、平成21年1月より多文化間精神医学会

理事、同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。

(7)大塚は、平成21年度より日本社会精神医学会学術委員を務めている。

(8)大塚は、平成22年10月より日本精神病理・精神療法学会評議員を務めている。

(9)大塚は、平成19年度より栃木県障害者介護給付費等不服審査会委員を務めている。

(10)大塚は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。

(11)北田は、平成22年9月より日本中医学会評議員を務めている。

(12)北田は、平成24年度より介護支援専門員実務研修受講試験委員を務めている。

(13)飯塚は、公益財団法人全国商業高等学校協会第30回英語スピーチコンテスト決勝で司会を務めた。

(14)飯塚は、公益財団法人全国商業高等学校協会英語専門委員として、全商英語検定試験1級及び2級の問題作成に従事した。

(15)飯塚は、栃木県立小山西高等学校において、「これから社会を生き抜くために～語学教師の視点から～」という演題で講演を行った。

(16)飯塚は、文部科学省後援ELEC（一般財団法人英語教育協議会）夏期英語教育研修会において、「新学習指導要領に向けた高校英語授業の工夫」という演題で講演を行った。

(17)飯塚は、栃木県立小山西高等学校における学校評議員を務めた。

(18)平尾は、非常勤講師として、宇都宮大学農学部の「動物形態学（30時間）」の講義を担当した。

(19)平尾は、栃木県高等学校理科部会の研修授業を1時間担当した。

基礎看護学

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香

准教授 里光やよい

助教 飯塚由美子

若澤 弥生

岩永麻衣子

湯山 美杉

2. 教育の概要

基礎看護学科目群では、発達段階に合わせたすべての人を意識し、4年間で学ぶべく看護学の基礎を、また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

1) 基礎看護学に関する教育概要

(1)看護学概論（1年次前学期2単位：必修）

担当：本田芳香：人間・健康・環境・看護の4つの概念から今後看護が目指すものを教授。

(2)実践看護学概論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特にインタビュー技術及び観察技術をグループワークを導入しながら学生自身の日常生活と関連させながら教授した。

(3)看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位・1単位必修）担当：本田芳香、他基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン、基本的大意に関し講義と演習を進めた。

(4)看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位・1単位必修）担当：本田芳香、他基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し、食事、排泄、清潔等の講義と演習を進めた。

(5)看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位・1単位必修）担当：本田芳香、他基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し、滅菌操作、採血等の検査、与薬に関連する点滴、筋注、皮下注等の講義演習を行った。

(6)看護技術演習Ⅳ（2年次前学期1単位必修）担当：本田芳香、他基礎看護学教員全員、フィジカルアセスメント、看護過程の展開を教授し、学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

(7)その他：「がん看護学」は、本田が担当。「看護トピックス」は里光、「看護基礎セミナー」は、基礎看護学教員全員が担当した。「看護研究セミナー」は、准教授以上（本田、里光）を中心に助教全員（飯塚、若澤、岩永、湯山）が担当した。「総合実習・総合セミナー」は、准教授以上（本田、里光）を中心に、助教全員（飯塚、若澤、岩永、湯山）が担当した。

3. 研究の概要

別様式 参照する。

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

准教授 鈴木久美子

准教授 塚本 友栄

助教 島田 裕子

助教 関山 友子

助教 青木さぎ里

助教 江角 伸吾

資格：看護師、保健師

学歴：修士（人間科学）（大阪大学人間科学
研究科博士前期課程）

職歴：看護師として、本学附属さいたま医療
センター（外科）に3年、非常勤看護師と
して千里リハビリテーション病院（回復期
リハビリテーション）に3年8ヶ月、メディ
カルホーム くらら箕面小野原に4ヶ月

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し、公衆衛生看護活動の展開に必要となる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して、主に行政に所属する保健師の活動を素材にして、教育にあたっている。担当科目は、実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修）、公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修）、公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修）、公衆衛生看護実習（3年次後学期3単位：必修）、地域看護管理論（4年次前学期1単位：必修）であり、本学科目教員全員で担当した。また、在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）では、本学科目教員は訪問看護実習、学校看護実習、産業看護実習を担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：塚本が科目責任者、春山、鈴木、島田、関山、江角も担当。②「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：鈴木、島田、関山、青木が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：鈴木が科目責任者、青木も担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：塚本、青木、江角が担当。⑤「研究セミ

ナー」（3年次後学期1単位：必修）：塚本が科目責任者、塚本、春山は講義担当、演習は本学科目教員全員で18名の学生を担当。⑥「国際看護論」

（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者、塚本、江角も担当。⑦「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑧「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で18名を担当。実習場所は下野市4名、群馬県吾妻郡中之条町六合地域4名、日光市足尾地域5名、県内訪問看護ステーション3名、県内事業所2名。⑨「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で学生18名を担当。春山1名、鈴木3名、塚本3名、島田3名、関山2名、青木3名、江角3名の学生を指導。学生は、発達に遅れがある児を持つ母親の育児体験、2型糖尿病をもつ作業労働者の自己管理支援、新入社員の生活習慣改善に影響する要因、中山間地域における後期高齢者の保健行動にかかる保健師の支援方法、中山間地域に住む高齢者の見守りの現状、終末期にある在宅療養者の家族への看護援助等に関する看護研究に取り組んだ。⑩「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では、鈴木が責任教員となり、前学期に「地域における健康危機管理活動の展開方法」をテーマに実施。本学科目教員全員で学生18名を担当。⑪その他：鈴木、青木は夏季へき地研修を担当。「へき地の生活と看護」の履修者及び「地域医療ミニ研修」を含む30名の研修を10カ所の施設において企画・実施した。

3. 研究の概要

1) 本学部共同研究費「へき地診療所における看護活動の実態と課題に関する調査」：江角が研究代表者となり、本学科目教員全員でへき地診療所看護師らとともに実施。

2) 本学部共同研究費「本学看護学部卒業生の現状と看護職継続に向けた基礎的研究」：春山、島田、江角が他学科目教員や本看護学部同窓会メンバーとともに実施。

3) 平成25年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））「保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究」（研究代表者：長崎県立大学 特命教授 平野かよ子）：春山は、研究分担者として「感染症対策にかかる保健活動の評価指標の検証」に取り組んだ。

4) 平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究」（研究代表者：沖縄県立看護大学 名誉教授 野口美和子）：春山が研究分担者。

5) 平成25年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・健康危機対策総合研究事業）「大規模災害に対する地域保健基盤整備実践研究」（研究代表者：福島県県北保健所 所長 遠藤幸男）の分担研究「災害時の被災市町村支援における地域診断項目とその活用に関する研究」（分担研究代表者：千葉大学大学院看護学研究科 教授 宮崎美砂子）：春山が研究協力者。

6) 平成25年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 教授 梶井英治）：春山が研究協力者。

4. その他

1) 栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）

（2013.6.19, 12.17, 参加者5名）：春山は講師、島田は助言者。

2) 栃木県看護協会平成25年度実習指導者講習会（受講者28名）：塚本が「臨地実習指導方法」（7時間、2013.8.21, 8.28, 8.29, 8.30）を担当。

3) 春山は、日本ルーラルナーシング学会理事、副事務局長、編集委員、関山は編集委員、鈴木・塚本・島田・青木は事務局員。

4) 春山：①下野市保健師等研究会 第1回研修会の講話「下野市保健福祉事業の実績集作成における事業評価の考え方と人材育成」（2013.5.31, 下野市）。第2回研修会の講話「『下野市の保健・予防事業及び福祉事業（保健師活動）まとめ』について」、グループワーク「地区分担制についての理解と課題」への助言（2013.10.9, 下野市）。第4回研修会の講話「保健師活動のあり方を考える」、グループディスカッションへの助言②第20回多文化間精神医学会学術総会のプログラム委員としてシンポジウム12「メンタルヘルスの問題を抱える女性の妊娠・出産・育児支援」の企画と座長（2013.6.15, 宇都宮市）③日本公衆衛生協会及び栃木県主催の平成25年度「保健師等ブロック研修会（関東甲信越ブロック）」の講演「効果的な事業展開のためのマネジメントの基本とコツ」及

びグループワーク「これからの保健師活動について」の助言者（2013.7.5, 参加者159名, 宇都宮市）④平成25年度筑西保健所管内要支援妊産婦支援体制の整備に係る連絡会議のスーパーバイザー（2013.8.1, 2013.11.27, 筑西市）⑤栃木県国民健康保険団体連合会の「平成25年度在宅保健師地域活動における受診率向上支援モデル事業」の評価及び助言（2013.9～）⑥栃木県県南健康福祉センター管内地域保健福祉等関係職員研修会の講話「地域診断に基づくPDCAサイクルの実施」（2013.11.25, 参加者34名, 小山市）⑦日本家族計画協会、予防医学事業中央会主催の第15回自己効力感（セルフエフィカシー）を高め主体的な行動変容を支える健康教育実践セミナーの講話「ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション」（2013.12.7, 受講者48名, 東京）。⑧栃木県保険者協議会主催の平成25年度特定健診・保健指導実践者育成研修会（実践編）における基調講演「特定保健指導の実効性を高めるために～連携～」及び事例発表のコーディネーター（2013.12.10, 宇都宮市）⑨日本看護協会主催の平成25年度保健指導支援事業保健指導ミーティングの講話「特性に応じた保健指導をめざす 新任期の保健指導とは」（2014.1.18, 参加者43名, 宇都宮市）。⑩平成25年度保健所保健師黒潮ブロック研修会の講話「保健所保健師活動の基本と実践～地域における保健師の保健活動に関する指針を踏まえて～」（2014.1.31, 参加者23名, 千葉県勝浦市）。⑪平成25年度市町村保健師管理者能力育成研修事業の講演「保健師管理者として必要な政策形成能力」（2014.2.5, 受講者63名, 東京）。⑫栃木県保健師現任教育のあり方検討会委員⑬沖縄県立看護大学 文部科学省「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」島しょにおける『包括的専門看護師』の養成の教育プログラム外部評価委員⑭厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師看護師分科会員）⑮日本地域看護学会理事及び教育委員会委員長、日本地域看護学会誌査読委員⑯日本公衆衛生学会評議員及び日本公衆衛生雑誌査読委員。⑰第73回日本公衆衛生学会総会学術部会委員（2013.10.11～）⑱日本ルーラルナーシング学会誌査読委員。⑲千葉看護学会誌査読者。⑳日本公衆衛生看護学会評議員及び学術実践開発委員、査読委員（2013.6.1～）。

5) 鈴木：①下野市介護認定審査会委員。②日本

ルーラルナーシング学会誌査読委員。③公益社団法人地域医療振興協会さいたま看護専門学校の非常勤講師として「家族支援論」を15時間担当。

6) 塚本：三重県看護協会主催の平成25年度三重県訪問看護機能強化・連携推進事業 地域の特性を考慮した退院支援・退院調整研修における講義「地域特性を考慮した退院支援・退院調整～在宅療養支援体制づくりのための活動方法～」

(2014.3.11, 受講者50名, 三重県)。

7) 島田：栃木県看護協会教育委員。

8) 江角：日本思春期学会評議員。

精神看護学

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

講師 千葉 理恵

（2013年4月地域看護学から異動、11月から
2014年2月まで出産・育児休暇）

助教 小池 純子

（2013年11月から出産・育児休暇）

助教 石井慎一郎（2013年10月就任）

資格：看護師、日本精神科看護協会精神科認定看護師

学歴：修士（看護学）（佐賀大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻修了）

職歴：看護師として、佐賀大学医学部附属病院（脳神経・泌尿器外科）に10ヶ月間、鯫島病院（精神科）7年5ヶ月間、佐賀大学医学部看護学科ティーチングアシスタント1年間、同非常勤教員1年6ヶ月間、福岡医療専門学校看護学科専任教員（精神看護学担当）2年6ヶ月間勤務

臨時助教 石田亜希子

（2013年11月就任、2014年3月退職）

資格：看護師

学歴：栃木県立衛生福祉大学校保健看護学部看護学科専科卒業

職歴：看護師として、自治医科大学附属病院に9年間勤務

2. 教育の概要

1) 精神看護学に関する教育概要

当学科では、あらゆる健康水準の個人及び集団を対象に、対象者の人権を尊重するとともに、その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は、精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく、多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目は、「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）は永井15時間、「精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は、半澤10時間、永井12時間、千葉6時間、「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は、永井10時間、半澤2時間、千葉2時間、土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間、精神看護学教員全員で12時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は、下野市、小山市、野木町、佐野市の4市町にある精神科デイケア4施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において、出産休暇および育児休暇取得中の千葉と小池を除き、永井、半澤、石井、石田の4名で90時間を担当した。また、総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では、精神看護学全教員が学生11名に対して120時間を担当した。さらに、半澤は「看護トピックス」（4年次後学期1単位；必修）の2時間を担当した。

2) 精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として、半澤は「援助関係論」（2単位）を30時間担当し、「生涯発達看護論」（2単位）では、永井が18時間担当した。また、永井、半澤、小池は「看護基礎セミナー」

（2単位）を28時間担当した。千葉は「文献講読セミナー」（2年次前学期2単位；必修）を16時間担当した。

3. 研究の概要

永井は、日本精神保健看護学会学術連携委員会における調査研究として精神科リエゾン・チームの運用と看護師・精神看護専門看護師等の役割・機能についてリエゾン領域の精神看護専門看護師とともに検討している。

半澤は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（B））による研究課題「統合失調症患者の家族の認知行動様式に関する日韓比較共同研究」（研究期間2010年度～2013年度予定）の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、田中英樹（早稲田大学）、ペイヨンジュン（長崎ウエスレヤン大学）、趙香花（国立精神・神経医療研究センター）、田中悟郎（長崎大学）、連携研究者は、中根允文（長崎大学）、太田保之（西九州大学）であった。さらに、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））の代表者として「精

神科臨床現場に形成されたモラルと行動制限に対する臨床判断に関する研究」（研究期間2013年度～2017年度）にも取り組んでいる。

千葉は、文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））の代表者として「精神疾患をもつ人々を対象とした、ポジティブな心理的変容を促す看護プログラムの開発」（研究期間：2013年度～2015年度予定）、および（公財）聖ルカ・ライフサイエンス研究所：平成25年度 臨床疫学等に関する研究助成の代表者として「精神疾患をもつ人々を対象とした、疾患の経験による心理社会的変化の評価尺度の開発」（研究期間：2013年度～2015年度予定）に取り組んでいる。

小池は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））の代表者として、半澤、稻本順子（昭和大学）、針間博彦（公益財団法人東京都医学総合研究所）と共同して「触法精神障害者家族に対する支援体制の確立に向けた基礎的研究」（研究期間2012年度～2015年度予定）に取り組んでいる。

石井は、「精神科看護師の臨床判断と豊同指數の検討」を研究テーマとして本学赴任前から継続的に取り組んでいる。

その他各教員が、国内外の学会での発表、学内外の学術雑誌への論文掲載など一定の成果を得ている。また、永井を中心に発足して8年目を迎える北関東精神保健看護研究会は、年2回の研究会を継続しており、栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換、現場の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

4. その他

永井は、栃木県看護協会、栃木県、糖尿病認定看護養成課程2施設（日本看護協会看護研修学校および日本赤十字看護大学）等が主催する各種研修会の講師として、また、四日市医療看護大学大学院の「コンサルテーション論」の非常勤講師として看護職の継続教育に協力した。また、日本精神保健看護学会評議員（学術連携委員会）・査読委員、精神保健従事者懇談会代表幹事、日本ルーラルナーシング学会評議員（涉外担当）、日本看護科学学会、千葉看護学会、文化看護学会、日本看護学教育学会の評議員、日本精神衛生学会の理事、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本家族看護学会の査読委員を務めている。さらに、介護福祉士国家試験委員（幹事）を務めた。

半澤は、日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当）、同学会誌編集委員、査読委員、日本社会精神医学会理事、同学会編集委員、査読委員、日本精神保健・予防学会の評議員、日本精神衛生学会理事および学会誌査読委員、日本精神神経学会 英文誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences, Psychiatry Research, International Journal of Culture and Mental HealthおよびAsian Federation of Psychiatric Associations, Asian Journal of Psychiatry, のReviewer、日本精神保健看護学会、日本ルーラルナーシング学会、日本看護科学学会と文誌の専任査読委員、日本精神保健福祉学会機関誌の編集委員を務めた。

千葉は、Clinical Nursing Studies, Open Journal of Nursing, International Journal of Mental Health Nursing, Asian Nursing Research, Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, の5誌の査読委員を務めており、2013年11月に開催された第17回 日本精神保健・予防学会学術集会のプログラム委員を務めた。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教授 成田 伸

教授 野々山未希子

准教授 角川 志穂

助教 熊谷 歩（2013年4月1日着任，
2014年3月31日退任）

取得資格：看護師，助産師，保健師

学歴：千葉大学看護学部卒業，アラバマ大学大学院公衆衛生研究科疫学科修士課程修了，修士（公衆衛生学）

職歴：愛育病院産科病棟・新生児病棟・小児科・婦人科病棟，上尾中央総合病院産科病棟に助産師として勤務後，上尾中央看護専門学校通信学科に母性看護学担当専任教員として勤務。

助教 黒尾 純子（2013年4月1日着任，
2014年3月31日退任）

取得資格：看護師，助産師，保健師。

学歴：自治医科大学看護学部卒業。

職歴：済生会宇都宮病院母子医療センターに助産師として勤務。

助教 柴山 真里（2013年4月1日着任）

取得資格：看護師，助産師，保健師。

学歴：自治医科大学看護学部卒業。

職歴：埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター，MFICU等に，助産師として勤務。

助教 中野 杏梨（2013年4月1日着任，
2013年11月30日退任）

取得資格：看護師，助産師。

学歴：自治医科大学看護学部卒業。

職歴：自治医科大学附属病院産科病棟に助産師として勤務。

2. 教育の概要

1) 母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（妊娠褥婦）（1年次後学期2単位：必修）（新カリ科目）

成田が担当し，熊谷が分担し，TAの協力を得て実施した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

(2)周産期実践看護学Ⅰ（妊娠褥婦）（2年次後学期

1単位：必修）（新カリ科目）

角川が科目責任として総括し，母性看護学教員で実施した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため乳児と母親に教育支援者として協力してもらい，学生と交流することで効果的な学習ができた。

(3)周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児期）（2年次後学期1単位：必修）（新カリ科目）

角川が科目責任として総括し，母性看護学教員で実施した。周産期看護実習につながる妊娠褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨床助教や地域助産師も加わり，丁寧な指導を行った。

(4)周産期実践看護学Ⅲ（胎児・新生児期）（3年次前学期1単位：必修）（旧カリ科目）

角川が科目責任として総括し，母性看護学教員で実施した。周産期看護実習につながる妊娠褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨床助教，地域助産師も加わり，丁寧な指導を行った。

(5)生涯発達看護学概論Ⅵ（4年次前学期1単位：必修）（旧カリ科目）

野々山が科目責任者として担当した。リプロダクティブルヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

(6)周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）（旧カリ科目）

成田が科目責任者となり，母性看護学教員が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し，効果的な実習を展開できた。

2) 助産学に関する教育概要（すべて旧カリ科目）

(1)助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として全体を総括した。

(2)基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として総括した。助産の基礎となる形態機能，妊娠・分娩の生理について教授した。

(3)基礎助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し，野々山が科目責任者として総括し，助産の基礎となる

産褥・新生児の生理について教授した。

(4)基礎助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し、野々山が科目責任者として総括し、家族発達と出産体験の社会的側面について教授した。

(5)実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し、成田が科目責任者として総括し、熊谷及び助教が分担した。

(6)実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し、成田が科目責任者として総括し、熊谷及び助教が分担した。分娩介助の演習については、学生が実習予定の施設の臨床指導者に来学いただき、具体的な指導を展開してもらった。

(7)実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し、成田が科目責任者として総括し、熊谷及び助教が分担した。

(8)実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し、野々山が科目責任者として総括し、地域における助産師活動について教授した。

(9)助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し、野々山が科目責任者として総括し、助産師活動に関する管理の概念と活動について教授した。

(10)妊娠期助産学実習（4年次前学期1単位：選択）

助産学生9名が受講した。成田が科目責任者として総括し、母性看護学教員が分担した。自治医科大学附属病院で、妊娠期の対象者を受持ち、ケアを展開した。

(11)分娩・育児期助産学実習（4年次後学期4単位：選択）

助産学生8名が受講した。成田が科目責任者として総括し、母性看護学教員が分担した。自治医科大学附属病院で3名、済生会宇都宮病院で3名、木村クリニックで2名が実習し、必要な分娩介助件数を達成し、継続ケースのケアを展開した。

3) 母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1)基礎看護セミナー（1年次前学期1単位：必修）

成田、野々山、熊谷、黒尾、柴山、中野が分担者としてそれぞれのグループを担当し、レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

角川が分担者としてグループを担当し、文献講読およびレポート作成を指導した。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

成田、野々山、角川、熊谷、黒尾、柴山が分担者として担当し、母性看護学領域に配分された学生を小グループとして受け持ち、テーマに関連した文献の収集、プレゼンテーション、レポート作成を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田、野々山、角川、熊谷、黒尾、柴山で母性看護学領域に配置された学生16名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして、附属病院産科病棟およびNICU、大野医院を使用し、栃木県助産師会の協力を得た。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し、母性看護学教員、TA、臨床助教の協力を得て実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し、最新知識を教授した。

(6)ジェンダー論（1、4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し、非常勤教員の協力も得て、ジェンダーにかかる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

3. 研究の概要

1) 成田と野々山は、「避妊・性感染症予防カウンセラーの育成とカウンセリング介入の評価研究」の一部として、避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラム受講修了者の受講後の避妊・性感染症予防カウンセリングの実践状況についてのフォーカスグループインタビュー調査を行った。

2) 角川は、自治医科大学看護学部共同研究費補助金「家族学級プログラムの開発に向けた基礎的研究－助産師に対する教育効果の検討－」について、まごーずへいぶん佐藤助産院 佐藤美佐子の分担研究者として研究を実施した。

3) 熊谷は、自治医科大学看護学部共同研究費補助金「母親側と支援者側双方からみた栃木県内における母乳育児支援の実態（10年後調査）」について、成田、野々山、角川、熊谷、柴山、中野を分担研究者として研究を実施し、調査票の作成、倫理審査の受審、対象施設への研究依頼を実施し

た。

4) 黒尾は、自治医科大学看護学部共同研究費補助金「第3次周産期医療センター内における新生児蘇生法実践の課題分析と臨床側と教育側の共同的な推進の方略の検討と実践（継続）」について、成田、野々山、角川、熊谷、柴山、中野を研究分担者として研究を実施した。途中黒尾が産休に入ったため、研究代表者を柴山に変更し、研究を継続した。

4. その他

1) 成田は、富山大学大学院医学薬学教育部修士課程医学領域看護学専攻において、「母性看護専門看護師育成の経験と課題」について教授した。

2) 成田は、聖マリア学院大学専攻科助産学専攻において「周産期医療における質の保証と看護」について教授した。

3) 成田は、第15回日本母性看護学会学術集会において、母性看護学会戦略的プロジェクト担当理事として、交流集会「母性看護専門看護師の育成－38単位への移行とその対応－」を主催した。

4) 野々山は、上尾看護専門学校「成人看護援助論Ⅱ」において、非常勤講師として「生体防御－性感染症とその予防－」「HIV感染症／AIDS」について教授した。

5) 野々山は、母子保健研修センター助産師学校において、非常勤講師として、助産診断・技術学「性感染症」について教授した。

6) 野々山は、日本性感染症学会第26回学術大会において、交流集会「（日本性感染症学会）認定士の集い」を主催した。

7) 野々山は、性の健康医学財団主催の第7回医療従事者と養護教諭のための性の健康基礎講座において、シンポジウム「若者の性行動と性感染における課題と対策」を主催した。

小児看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

准教授 横山由美

准教授 大脇淳子（2014年3月31日退任）

講 師 小林京子

講 師 田村敦子（2013年10月1日着任）

取得資格：看護師、養護教諭（1種）、高等学校教諭（看護、保健）

学歴：弘前大学教育学部（特別教科）看護教員養成課程卒業、聖路加看護大学大学院博士前期課程修了、聖路加看護大学大学院博士後期課程（在学中）

職歴：聖路加国際病院（看護師）、自治医科大学看護学部（助手）

2. 教育の概要

1) 小児看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）（新カリ科目）

横山が科目責任者として総括し、田村が分担して実施した。小児看護学の基本概念、成長・発達、倫理、制度などを学習する。

(2)小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

（新カリ科目）子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対しての援助を学習する。

横山が科目責任者として担当し、臨床教授の朝野、臨床講師の黒田が2時間ずつ講義を担当した。

(3)小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位：必修）

（新カリ科目）小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

大脇が科目責任として総括し、講義は横山、田村、小林が分担して実施した。演習は大脇、横山、田村、小西（臨時教員）とTAおよび臨床教員で実施した。

(4)小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位：必修）

（旧カリ科目）小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護、看護過程の展開などを学習する。

小林が科目責任として総括し、講義は横山、大脇が分担して実施した。演習においては、小林、横山、大脇とTAで実施した。

(5)小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健

康課題をもつ子どもと親・家族を理解し、看護の展開を学ぶ。

大脇が2クール目まで科目責任者として総括していたが、3クール目から科目責任者が横山に代わり総括を行った。大脇、小林が5クール、横山2クール（総括以外）、小西（臨時教員）1クール、堀田（臨時教員）4クール担当した。

3) 小児看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

大脇が分担者としてグループを担当し、レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

小林が分担者としてグループを担当し、文献講読およびレポート作成を指導した。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

横山、大脇、田村が分担者として担当し、小児看護学領域に配分された学生を小グループとして受け持ち、テーマに関連した文献の収集、プレゼンテーション、レポート作成を指導した。

(4)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

横山、大脇、小林で小児看護学領域に配置された学生15名を指導した。小林は9月からの留学のため8月まで指導し、小林担当の学生は9月以降横山が指導した。

(5)総合実習（4年次前学期2単位：必修）横山、大脇、小林で小児看護学領域に配置された学生15名を指導した。フィールドとして、自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟、3A病棟、小児外来を使用した。

(6)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）大脇が担当し、学生を指導した。

3. 研究の概要

1) 横山と小林は、自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児看護専門看護師の黒田と4A病棟看護師の齊藤と看護学部看護系教員共同研究費で「子どもの終末期におけるきょうだいへの支援の検討」をテーマに研究を実施し、12月に開催された日本がん看護学会第11回学術集会で発表した（発表者：齊藤）。

2) 大脇は、附属病院師長渡辺、小児外来主任大畠、小児外来看護師浅川と看護学部看護系教員共同研究費で「学童期小児門性疾患患者のアドヒアランス向上にむけた看護支援に関する研究」を

テーマに研究を実施した。

4. その他

- 1) 横山は、東京都保健医療公社 多摩南部地域病院看護部研修で、看護研究の講師を務めた。
- 2) 横山は、第44回日本看護学会一小児看護一学術集会で座長を務めた。
- 3) 横山は、第44回日本看護学会一小児看護一学術集会において、抄録委員を務めた。
- 4) 横山は、東京大学大学院地域看護学教室研究会で「質的研究で博士論文を執筆する際の進め方や分析方法」をテーマに講師を務めた。
- 5) 横山は、とちぎ小児看護研究会で「小児看護における看護倫理」をテーマに講師を務めた。
- 6) 横山は、博士前期課程の塚本、手塚とともに小山市立福良小学校および小山市立梁小学校の学校保健委員会で5・6年生を対象に健康教育を行った。
- 7) 横山、大脇、小林、田村は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで、退院後の育児相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。
- 8) 横山は、日本ルーラルナーシング学会選挙管理委員長を務めた。
- 9) 横山は、栃木県看護協会研修会一般教育「家族看護」の講師を務めた。
- 10) 小林は、聖学院大学人間福祉学部児童学科の学部学生に「子どもの保健A」の講義を行った。
- 11) 小林は、文部科学省科学研究補助金（研究スタート支援）（研究代表者：小林京子）による研究課題「小児白血病の体力の低下予防プログラムと家族の生活マネジメントガイドラインの開発」の研究を実施した。
- 12) 小林は、フルブライト奨学金を獲得し、2013年10月1日～12月31日にアメリカペンシルバニア州フィラデルフィアのUniversity of Pennsylvania School of Nursingに短期留学した。

成人看護学

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

准教授 小原 泉

准教授 村上 礼子

助教 段ノ上秀雄（2014年3月31日退職）

助教 横山 定美

助教 吉田 紀子

助教 安藤 恵

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は、健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1) 成人看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅳ（成人期）（1年次前学期2単位：必修）

中村が12時間、小原が8時間、村上が8時間の講義を担当した。

(2)成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

中村が12時間、小原が6時間、段ノ上が6時間、横山が6時間の講義を担当した。

(3)成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

講義は、中村が6時間、段ノ上が2時間、吉田が4時間、担当した。演習は、看護過程8時間、手術療法を受ける成人および生命の危機状況にある成人の看護の演習8時間、呼吸障害・循環障害をもつ成人の看護の演習4時間を成人看護学全教員で担当した。

(4)成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

内部環境調節機能障害をもつ成人の看護の講義は、小原が4時間、村上が2時間、演習2時間は村上を中心に成人看護学全教員で指導した。脳・神経機能障害をもつ成人の看護の講義は、中村が2時間、小原が2時間、村上が2時間担当した。

(5)成人実践看護学Ⅳ（3年次前学期1単位：必修）

村上が8時間、段ノ上が6時間講義を担当した。演習は、感覚機能障害をもつ成人の演習2時間、運動機能障害をもつ成人の演習2時間、看護過程演習10時間を成人看護学教員全員で担当した。

(6)成人期看護臨床実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は実習全体の統括を行い、小原、村上および吉田は各2クール、段ノ上、横山および安藤は各3クール実習指導を行った。

(7)成人期看護フィールド実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は科目責任者として全体を統括し、村上および吉田が各3クール、小原、段ノ上、横山および安藤が各2クールの実習を担当した。

2) 成人看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

村上、段ノ上、横山、吉田および安藤は、グループ別のセミナーを担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

中村が科目責任者として15回の授業を統括した。中村は4時間の講義とグループ学習、小原とはグループ学習を中心に指導を行った。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

中村は、全体の学習内容と進度の統括を行い、3グループを編成して成人看護学全教員で計20名の学生を指導した。

(4)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中村が全体を統括指導し、成人看護学全教員が計18名の学生を指導した。

(5)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中村が全体を統括指導し、成人看護学全教員が学生18名を指導した。

(6)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

中村が全体を統括、村上を中心に企画運営、その他成人看護学教員全員が学生を指導した。

(7)チーム医療論（4年次前学期および2年次後学期1単位：必修）

小原は科目責任者で、8時間の講義を担当した。

(8)がん看護学（4年次前学期および2年次後学期1単位：選択）

小原は2時間の講義を担当した。

3. 研究の概要

1) 中村は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）（研究代表者：中村美鈴）による研究課題「術後機能障害評価尺度（DAUGS20）の欧米版の開発と有用性の検証」において、上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度（短縮版）の欧米化の開発に向けて、本学教員の分担研究者小原泉、村上礼子、Alan Lefor、研究協力者の吉田紀子とともに、Vanderbilt Cancer センターの共同研究

者とデータ収集に関する調整を行い、研究を推進した

2) 中村は、文部科学省学術研究助成金（挑戦的萌芽研究）における研究課題「日本における胃がん患者の術後機能障害の基準値確立への挑戦」（研究代表者：中村美鈴）において、連携研究者は本学看護学部教員の村上礼子、吉田紀子、ならびに研究協力者の小原泉、樋山定美、安藤恵と研究成果をまとめ、報告書を提出した

3) 中村は、25年度文部科学省学術研究助成金（研究成果公開促進費）における「上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度：DAUGS」和書に取り組み、本学部教員の小原泉、村上礼子、段ノ上秀雄、樋山定美、吉田紀子、安藤恵の協力を得て、2014年2月に刊行できた

4) 小原は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者：小原泉）による研究課題「がん臨床試験についての患者の理解度評価に関する研究」において、理解度評価尺度の開発に向けて、本学部教員の本田、本学医学部教員の藤井博文および藤原寛行、がん研有明病院の宋菜緒子とともに、尺度項目の検討と予備調査の実施を行った。

5) 村上は、学内看護系教員共同研究費（平成25年度学内研究助成）による研究課題「看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割～急変場面におけるリーダー役学生への意図的声かけ～」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。共同研究者は中村、本学部教員里光、本学部教員川上、本学部教員小林、本学部教員柴山、本学部臨床教員井上、本学医学部教員河野龍太郎、本学医学部教員鈴木義彦、本学医学部教員淺田義和であった。

6) 小原は、厚生労働省科学研究費補助金（医療技術実用化総合研究事業）による研究課題「臨床研究コーディネーター養成カリキュラムの標準化に関する研究」（研究代表者：国立大阪医療センター 楠岡英雄）に分担研究者として参加し、上級CRC養成カリキュラムの検討などを行った。

7) 中村は、研究代表者として、研究課題「日本における食道がん患者の術後機能障害の基準値確立への挑戦」で文部科学省科学研究補助金（萌芽研究）を申請したが、採択されなかつたため、同研究は計画にとどまり、実施されなかつた。申請時の連携研究者は、本学看護学部教員樋山定美、

吉田紀子、研究協力者は、本学看護学部教員の安藤恵であった。

4. その他

1) 村上は、本学附属病院呼吸器外科・口腔外科病棟の看護師を対象に、研究課題「口腔外科領域の化学・放射線療法による口内炎予防に向けた取り組み—コンプライアンス向上を目指したパンフレット導入を試みて—」について、研究指導を行つた。

2) 樋山/中村は、本学附属病院消化器外科病棟の看護師を対象に、研究課題「胃がん術後患者の職場復帰に伴う食生活における困難と対処行動」について、研究指導を行つた。

3) 中村は、2006年9月より、引き続き日本救急看護学会の評議員を務め、倫理委員会の委員、専任査読委員を務めた。

4) 中村は、2008年度より、引き続き日本クリティカルケア看護学会誌編集委員会の編集委員を務め、投稿論文2本の査読を行つた。

5) 中村は、2009年度から、引き続き日本看護教育学会誌の専任査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行つた。

6) 中村は、2012年4月より、日本看護科学学会誌英文誌の編集委員を務め、投稿論文2本の査読を行つた中村は、2006年9月より、引き続き日本救急看護学会の評議員を務め、会則委員会の委員、専任査読委員を務め、2本を査読した。

7) 中村は、2013年度第44回日本看護協会成人看護I（急性期）学会委員と論文編集委員長を担当し、投稿論文5本の査読を行つた。

8) 小原は、日本がん看護学会誌の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行つた。

9) 吉田は、第44回日本看護学論文集 成人看護Iの論文選考委員を務め、投稿論文4本の査読を行つた。

10) 中村は、2013年度第9回日本クリティカルケア学会における学会発表抄録4本の査読を行つた。

11) 中村は、2013年度第15回日本救急看護学会における学会発表抄録の5本の査読を行つた。

12) 中村は、2013年度第23回日本看護学教育学会における学会発表抄録の5本の査読を行つた。

13) 小原は、第28回日本がん看護学学会学術集会の査読委員を務め、一般演題抄録5本の査読を行つた。

- 14) 中村は、第15回日本救急看護学会における交流セッション「カフェ的会話で救急看護の未来が輝く」を企画し、本学教員、村上礼子、小原泉、段ノ上秀雄、吉田紀子、樅山定美、安藤恵とともに開催した。
- 15) 中村は、第15回日本救急看護学会における交流セッション「大学と臨床における看護学教育の連携」において、本看護学部における臨床教授等の制度導入をもとに、実習における看護学教育の連携について登壇した。
- 16) 中村は、2011年9月より日本ルーラルナーシング学会事務局事務局長を務めていた。また、小原、村上、段ノ上は、2011年9月より日本ルーラルナーシング学会事務局の中で、事務局長補佐、庶務、広報担当の役割を遂行した。
- 17) 中村は、2006年4月より、引き続き日本保健医療社会学会の評議員を務めた。

老年看護学

教授 宮林 幸江

1. スタッフの紹介

教授 宮林 幸江
准教授 浜端 賢次
講師 川上 勝
講師 清水みどり

2. 教育の概要

老年看護学では、様々な生活の場・療養の場で、あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として、看護を実践するために必要な専門的能力を養うことを教育目標としている。

1) 老年看護学に関する教育概要

(1)老年実践看護学Ⅰ（2年次前学期1単位：必修）
高齢者の健康特性及び健康評価に基づき、セルフケアやヘルスプロモーションの考え方を中心に、高齢者の保健・医療・福祉の連携など、高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。なお、鮎澤みどり非常勤講師による講義を組込んだ。

（担当：宮林、浜端、清水）

(2)老年実践看護学Ⅲ（3年次前学期1単位：必修）
老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし、臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害、皮膚障害、排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また、認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。（担当：全教員）

(3)老年臨床看護実習（3年次前学期2単位：必修）
附属病院および特別養護老人ホーム、認知症グループホームにおいて、疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

（担当：全教員）

(4)生涯発達看護学概論IV（老年期）（1年次後学期2単位：必修）

老年看護学の概念及び対象と老年看護学の役割を学ぶことを目的とした。高齢者疑似体験や回想法に関する学びを取り入れた。臨床の場における看護の実際が理解できるよう、戸田昌子臨床講師、鮎澤みどり非常勤講師、船田淳子非常勤講師による講義を組み込んだ。

（担当：宮林、浜端、川上、清水）

(5)老年実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位：必修）

加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また、臨床の場の看護の実際が理解できるよう、井上佐代子臨床講師、太田信子臨床講師、阿久津美代臨床助教、塩崎純子臨床助教による講義を組んだ。

（担当：宮林、浜端、川上、清水）

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

宮林は熊谷助教と7名の学生を、浜端は小池助教と8名の学生を担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前期1単位：必修）

川上と清水は各々9名の学生を担当した。

(3)看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

20名の学生を対象に、看護実践課題に沿った先行研究の文献検討、総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員5名の学生を担当した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

20名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し、実践内容が目的に沿うよう随時指導した。（担当：全教員）

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

14名の学生を対象に、看護活動の場（病院・施設・在宅）における高齢者に起こりやすいリスクとその対応、予防策について理解が進み、将来展望がもてるよう指導した。（担当：全教員）

(6)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

研究方法の理解に基づき自己の看護実践課題を整理することを目的に、20名の学生を対象に、テーマに沿った先行研究の文献検討、研究計画書の作成への指導を行った。（担当：全教員）

(7)在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）

浜端は科目責任者として全体を統括した。老年看護学では、訪問看護ステーション及び通所リハビリテーション施設での学生指導を担当した。（担当：全教員）

大学院看護学研究科 教育の概要

母子看護学領域「小児看護学」

教授 成田 伸

1. スタッフ紹介

准教授 横山 由美

准教授 大脇 淳子

2. 大学院教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探求するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

平成25年度は、専門看護師教育課程を希望する2名について、1年次の教育を行った。

院生の状況を配慮しつつ、ティーチングアシスタントとして、小児看護学の講義・演習・実習・セミナー等を補助し、教育方法について指導した。

1) 小児看護学講義I（1年次前期2単位）子どもを理解するために、成長発達、生活、社会的・歴史的側面から、主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。

横山が全講義を担当した。

2) 小児看護学講義II（1年次前期2単位）子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために、小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。

横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の小児看護専門看護師黒田・本多、朝野が分担者として担当した。

3) 小児看護学演習I（1年次後期2単位）保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し、看護の役割・活動について学ぶ。

横山が科目責任者として総括し、非常講師の朝野、小児看護専門看護師黒田が分担者として担当した。

4) 小児看護学演習II（1年次後期2単位）専門的小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。

横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の医学部教員河野、熊谷が分担者として担当した。

5) 小児看護学講義III（1年次後期2単位）小児専門看護職として必要な機能の側面から、小児看護

の現状を分析し、小児看護専門職の課題および役割について学ぶ。

横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の小児看護専門看護師黒田・本多・佐々木が分担者として担当した。

6) 小児看護学演習III（1年次後期2単位）事例を用いて小児看護実践における課題および専門看護師としての援助について検討する。事前学習として8月に日光市を対象とした地区踏査および日光市民病院オリエンテーションを行った。演習のフィールドとして日光市民病院を使用した。

横山が科目責任者として総括し、非常勤講師で小児看護専門看護師の黒田・本多・佐々木が分担者として担当した。

講義・演習・セミナーを通じて院生それぞれが課題研究での課題検討を行い、研究構想発表会において発表し、さらに検討を重ね、1名は倫理審査を受審し承認を得た。

院生の手塚は、文献検討した結果から、「Review of Literature: The Meaning of Behavior Exhibited by Children Who Undergo Treatment」について17thEAFONSにおいてポスター発表した。

母子看護学領域「母性看護学」

教授 成田 伸

1. スタッフ紹介

教授 成田 伸

教授 野々山未希子

准教授 角川 志穂

2. 大学院教育の概要

平成25年度は、専門看護師教育課程を希望する1名および特別研究を目指す1名について、1年次の教育を行った。前期には母性看護学講義ⅠⅡおよび母性看護学演習ⅠⅡ、後期には母性看護学講義Ⅲおよび母性看護学演習Ⅲを、非常勤講師による臨地講義を活用して実施した。

講義・演習・セミナーを通じて院生それぞれが課題研究、特別研究に向けての課題検討を行い、研究構想発表会において発表し、さらに検討を重ね研究計画を立ち上げ、倫理審査を受審し承認を得た。

院生の望月は、特別研究のテーマとして女子受刑者に対する支援を選択し、文献検討した結果から、アメリカにおける刑務所内の受刑妊婦の現状と課題についてまとめ、第12回自治医科大学シンポジウムにおいてポスター発表し、優秀ポスター賞を受賞した。

院生の植木は、課題研究のテーマとしてNICUの母乳育児支援を選択し、文献検討を進めるとともに、国際ラクテーションコンサルタント有資格者の助産師、新生児科医がNICUにおいて先駆的な実践を行っている川口市立川口市立医療センターにおいて事前実習を行い、NICUにおける母乳育児の実践について学んだ。

院生の状況を配慮しつつ、院生はティーチングアシスタントとして、母性看護学・助産学の講義・演習・実習・セミナー等を補助し、教育方法について学んだ。

健康危機看護学領域 「クリティカルケア看護学」

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴
准教授 村上 礼子

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状態からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

1) クリティカルケア看護学に関する教育概要

(1)クリティカルケア看護学講義 I (1年次前学期2単位：必修・選択)

中村が14時間、村上が4時間、田畠邦治非常勤講師（白百合大学文学部宗教科教授）4時間、丹下博一非常勤講師（上智大学短期大学部英語科教授）4時間、本多康生非常勤講師（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）4時間の講義を担当した。

(2)クリティカルケア看護学講義 II (1・2年次前学期2単位：必修・選択)

中村が18時間、村上が4時間、綿貫成明非常勤講師（国立看護大学校看護学部看護学科准教授）が4時間、中村恵子非常勤講師（札幌市立大学看護学部学部長・教授）が4時間の講義を担当した。

(3)クリティカルケア看護学講義 III (1・2年次後学期2単位：必修・選択)

中村が10時間、村上が8時間、布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座学内教授）が4時間、竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授）が2時間、多賀直行非常勤講師（とちぎ子ども医療センター准教授）が2時間、和田政彦非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が2時間、鈴川正之非常勤講師（医学部救急医学講座教授）が2時間の講義を担当した。

(4)クリティカルケア看護学演習 I (1年次前学期2単位：必修)

中村が48時間、村上が8時間、新貝夫弥子非常勤講師（愛知県がんセンター中央病院看護科

CNS）が4時間の講義・演習を担当した。

(5)クリティカルケア看護学演習 II (1・2年次前学期2単位：必修)

中村が40時間、村上が8時間、藤井博文非常勤講師（附属病院臨床腫瘍部学内教授）が4時間、木下佳子非常勤講師（NTT東日本関東病院CNS）が8時間の講義・演習を担当した。

(6)クリティカルケア看護学演習 III (1・2年次後学期2単位：必修)

中村が36時間、村上が12時間、井上荘一郎非常勤講師（附属病院麻酔科講師）が4時間、茂呂悦子非常勤講師（附属病院看護部CNS）が8時間の講義・演習を担当した。

(7)クリティカルケア看護学特別演習 (1・2年次後学期4単位：選択必修)

中村が76時間、村上が44時間で講義・演習を担当した。

(8)クリティカルケア専門看護実習 (2年次前学期6単位：選択必修)

高度医療施設を中村が4単位、へき地における病院を中村・村上が2単位、担当した。

(9)健康危機看護学特別研究 (2年次6単位：選択必修)

研究指導教員として中村、研究指導補助教員として村上が担当した。

(10)健康危機看護学課題研究 (2年次4単位：選択必修)

研究指導教員として中村が担当した。

健康危機看護学領域「精神看護学」

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

2. 教育の概要

精神看護学では、主として精神的な健康危機状態について、人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを扱う。上級の精神看護実践専門職として役割を果たすことができ、実践状況を変革できる人材育成を目指した教育活動をしている。

平成25年度に精神看護学に関する専門科目の履修を登録した院生は4名であり、このうち2名は本年度入学した1年生であり、1名は科目等履修生である。2名の1年生のうち1名は専門看護師をめざす履修モデルであり、別の1名は標準の履修モデルである。平成25年度に開講した科目は、精神看護学講義I、講義II、講義III、精神看護学演習I、健康危機看護学特別研究（いずれも前期）、また、精神看護学演習II（後期）を開講した。

【精神看護学講義I（前期）】

講義Iでは、精神の健康状態およびセルフケアのアセスメントと、精神療法、精神科薬物療法、心理社会的療法等の各種のセラピーに関する最新の知識を理解し、支援とケアの効果を高める精神看護実践の専門職としての技術について学修する。1年生1名、科目等履修生1名の計2名が履修した。

【精神看護学講義II（前期）】

講義IIでは、精神障害者のリハビリテーションを促進し、社会参加を支える制度とシステムについて理解し、精神看護実践の専門職としての役割について学修する。1年生2名、科目等履修生1名の計3名が履修した。

【精神看護学講義III（前期）】

講義IIIでは、精神看護実践で複雑な臨床的問題（身体合併症、長期入院、複雑な家族背景、自傷他害行為など）を解決するために必要な理論と技術を学ぶ。また、精神看護実践で生じている問題に関する分析方法、および対象者をエンパワーし、

リカバリーを支える援助の提供方法（セルフヘルプグループ等）をシステム的な視野も含めて学修する。1年生2名が履修した。

【精神看護学演習I（前期）】

演習Iでは、精神障害者とその家族の健康的な生活を支えるための看護の役割と活動について検討し、精神看護実践における倫理的課題を分析し、解決する方策について演習する。1年生2名、科目等履修生1名の計3名が履修した。

【精神看護学演習II・演習III（後期）】

演習II及び演習IIIは本年度開講しなかった。

【健康危機看護学特別研究（通年）】

特別研究では、看護実践を通して見出された研究課題について研究を行い、研究指導をうけて修士論文を作成する。3年生1名が履修した。この1名は、平成24年度後期に「精神看護学特別演習」を履修し研究計画書を作成し、本科目を履修し看護学研究倫理審査会に申請を行った。

がん看護学領域「がん看護学」

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香

准教授 小原 泉

2. 教育の概要

がん看護学領域は、平成19年度に文部科学省の「がんプロフェショナル養成プラン」において、本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において、平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に、がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して、看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。この領域はがん看護学のみで、がん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。

1) がん看護学に関する教育概要

平成25年度の入学者は0名である。平成24年度入学者1名、平成22年度入学者1名の2名について、2年次の実習、課題研究を開始した。

【がん看護専門看護実習】(2年次前期科目)

4単位

がん患者およびその家族が体験する様々な健康課題の時期に適した専門的看護支援を継続的に提供するため、臨地実習を通して高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実際について理解を深め、創造的ながん看護ケア開発を目指すことを授業目標とした。CNS役割開発実習と上級がん実践看護実習の2つに分け系統的かつ包括的な実践能力を育成する。CNS役割開発実習では、CNS役割実習と在宅がん看護実習を通して、CNSのスーパービジョンを受けながら、その役割機能の実際を学んだ。上級がん実践看護実習では、CNSとして、複雑な健康問題のあるがん患者とその家族に対して、高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の役割機能を遂行できる能力を養

うため主体的な実践を通して、CNSのスーパービジョンを受けながら、創造的ながん看護ケア開発を学修した。評価方法は、実習態度、実習目標に対する自己評価、他者評価、レポート評価、総括報告会で評価をおこなった。本田、小原が担当した。

【がん看護学課題研究】(2年次後期科目) 2単位

がん看護学領域における新たな知見を探求するため、自己の研究課題に沿い科学的根拠に基づいた研究方法を用いて研究論文を作成することを授業目標とした。1年次より実践課題より文献検討を重ね自治医大シンポジウム、研究構想発表会等により研究課題を明確にし、研究計画書を作成した。科学的根拠に基づいた看護独自のアプローチ方法を探求し、臨床実践に寄与するための研究論文を作成した。評価方法は、各自の一連の研究プロセス及び成果物、修士論文の口頭試問、発表会で評価をおこなった。本田、小原が担当した。

以上

老年・地域看護管理領域 「老年看護管理学」

教授 宮林 幸江

1. スタッフの紹介

教授 宮林 幸江

准教授 浜端 賢次

2. 教育への概要

対象高齢者の多くが健康障害と折り合いをつづつ、家族（独居）、または施設を活用し生きる生活者である。基盤となる生活の場が変化しつつも治療・加療環境の維持・継続やマネジメントを可能とする他部門との協働や必要な実践について理解するばかりでなく、クリエイティブな実践法や制度について探求していくことを目指し、地域で生活する健康障害を持つ高齢者とその家族に対し健康的な生活を支援し、かつ健康な高齢者の健康保持・増進にも積極的に寄与する看護管理能力の取得を目指した人材の育成を教育目標としている。

老年・地域看護管理学領域 「地域看護管理学」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗
准教授 鈴木久美子
准教授 塚本 友栄

2. 教育の概要

地域看護管理学を履修している1年生は1名、2年生は3名（2年目2名、3年目1名）で全員が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり、地域ケア体制づくり、その他の地域看護管理に関する知識や技術を教授し、地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い、地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位、春山担当）、「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位、春山・鈴木担当）、「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位、春山・非常勤講師担当）、「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位、春山・鈴木・非常勤講師担当）、「地域看護管理学演習」（4単位、春山・鈴木・塚本担当）、「地域看護管理学特別演習」（4単位、春山・鈴木・塚本担当）、「老年・地域看護管理学特別研究」（6単位）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は、文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して、地域看護管理に関する主要概念、地域における看護活動体制づくりの理論と考え方、地域資源の評価と開発に関する看護活動について学修することである。1年生1名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は、文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点、へき地看護理論の基礎、へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。1年生1名が履修した。

【地域看護管理方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は、実践事例や先行研究の知

見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法、施策化に関する看護専門職の役割と看護活動の展開方法について検討することである。

1年生1名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は、山間へき地や離島、豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し、へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生1名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は、地域特性とヘルスニーズの分析から、地域における看護提供体制を評価検討し、看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生1名が履修した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て、県内1市において実習を実施した。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し、研究を計画することである。2年生2名が履修した。文献検討、並びに、学生自身の研究テーマと関連させて、1名は山村過疎地域を有する県内1市及び当該市を管轄する保健所並びにへき地医療拠点病院で、1名は県内1市及び療育機関でフィールドワークを行い、ゼミと個別指導により、研究計画を精錬した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生1名の研究指導を行い、鈴木が研究指導を補助した。

修士論文のテーマは「潜在性結核感染症の治療を受ける患者の体験」であった。

共通科目

大学院看護学研究科
幹事長 中村 美鈴

看護学研究科の教育課程において、看護学の高度専門職に求められる看護実践能力の育成強化を目指し、教育課程を構成し、「共通科目」と「専門科目」を置いている。平成25年度に開講された共通科目は、「地域医療論」担当教員：春山早苗12コマ「看護管理・政策論」「看護倫理」「看護実践研究論」「看護継続教育論」「コンサルテーション論」「地域調査法」「フィジカルアセスメント特論」という8科目（各2単位）を開講した。いずれの科目も選択科目であり、前期もしくは後期科目として開講されている。共通科目はいずれも、1・2年次の配当科目となっており、いずれの年次にも履修することが可能となっている。

なお、このうち、「看護管理・政策論」「看護倫理」「看護実践研究論」「看護継続教育論」「コンサルテーション論」の5科目は、専門看護師教育課程の共通科目として認定されている。

【地域医療論】

本科目は、地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することを目標に、地域ニーズの捉え方及びその展開方法、地域の保健医療施設の有機的連携等の実際等について教授する。

地域医療論（共通単位2単位：選択）

春山が10コマ（20時間）、梶井英治非常勤講師が1コマ（2時間）、大嶽浩司非常勤講師が1コマ（2時間）、神田健史非常勤講師が1コマ（2時間）の講義を担当した。

【看護管理・政策論】

本科目は、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動管理の組織化の方法並びに看護制度、政策的働きかけについて学修することを目標に、保健医療福祉システムの中で質の高いケアを提供するための機能・役割や活動方法等を教授する。

看護管理政策論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目選択）

野村陽子非常勤講師が6コマ（12時間）、塚原節子非常勤講師が4コマ（8時間）、春山が2コマ（4

時間）、朝野春美非常勤講師が1コマ（2時間）、水流聰子非常勤講師が2コマ（4時間）、福田順子非常勤講師が1コマ（2時間）の講義を担当した。

【看護倫理】

本科目は、看護場面における複雑な判断を要する倫理的課題として、看護専門職としての立場から果たすべき機能について学修することを目標に、倫理的葛藤や課題並びに倫理的調整活動に必要な知識を教授する。

看護倫理（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

小原が4コマ（8時間）、加藤直克非常勤講師が2コマ（4時間）、服部健司非常勤講師が2コマ（4時間）、加藤・渥美・小原が共同で7コマ（14時間）の講義を担当した。

【看護実践研究論】

本科目は、看護分野における実践研究の特徴を知り、その実際について学修することを目標に、専門的看護の質の向上に寄与する看護研究をすすめていく上での各種研究法の具体的展開について教授する。

看護実践研究論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

永井が5コマ（10時間）、中村が5コマ（10時間）、半澤が5コマ（10時間）の講義を担当した。

【看護継続教育論】

本科目は、生涯学習の視点から看護継続教育の現状を理解し、看護の継続教育に関する知識と技術について学修することを目標に、看護ケアの質を高めるために必要な上級看護職者が行う教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の継続教育に関する知識と技術を教授する。

看護継続教育論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

本田が5コマ（10時間）、塚原節子非常勤講師が5コマ（10時間）、福田順子非常勤講師が5コマ（10時間）の講義を担当した。

【コンサルテーション論】

本科目は、コンサルテーションによる理論と倫理的侧面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討することを目標に、上級看護

職が必要とするコンサルテーション技能と役割について教授する。

コンサルテーション論（共通単位2単位：専門看護師教育課程の認定科目 選択）

永井が9コマ（18時間）、広瀬廣子非常勤講師が2コマ（4時間）、永井・広瀬・半澤・塚本が共同で4コマ（8時間）の講義を担当した。

【地域調査法】

本科目は、地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法並びに分析方法等を学修することを目標に、地域において効果的かつ効率的な看護活動・保健活動やその管理的活動を展開する上で必要な地域の健康問題やニーズを把握するための質的・量的調査法を教授する。

地域調査法（共通単位2単位：選択）

渡邊が5コマ（10時間）、春山が5コマ（10時間）、大塚が5コマ（10時間）の講義を担当した。

【フィジカルアセスメント特論】

本科目は、身体の急激な変調とその原因・要因となる病態を捉え、治療ならびに看護援助に生かすためのアセスメントを実例を通して学修することを目標に、特に救急、慢性疾患の治療、在宅患者における病態評価に重点をおいて教授する。

フィジカルアセスメント特論（共通単位2単位：選択）

本田が15コマ（22.5時間）の講義を担当した。

博士後期課程 広域実践看護学分野

研究科長 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教 授 春山 早苗	教 授 中村 美鈴
教 授 永井 優子	教 授 成田 伸
教 授 半澤 節子	教 授 本田 芳香
教 授 宮林 幸江	教 授 野々山未希子
教 授 大塚公一郎	教 授 渡邊 亮一
准教授 小原 泉	准教授 塚本 友栄
准教授 横山 由美	講 師 飯塚 秀樹

2. 教育への概要

博士後期課程は開設2年目となり、1年生は2名、2年生は3名で、全員が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」(2単位、必修)、「広域実践看護学特論Ⅱ」(2単位、選択)、「広域実践看護学演習」(2単位、必修)、「広域実践看護学特別研究」(6単位、必修、1~3年次)であった。専門関連科目の開講科目は「地域保健医療研究論」(2単位、選択)であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）春山・成田担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をとおして、看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント、施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。1年生2名が履修。

【広域実践看護学特論Ⅲ（メンタルヘルスケア研究法）半澤・宮林担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をとおして、精神保健上の健康に関わる課題について理解し、国内外における精神保健医療福祉の歴史や現状を踏まえて、メンタルヘルスに関わる看護実践の開発につながる研究方法を探求する。1年生2名が履修。

【広域実践看護学演習】

本科目では、先行研究の知見の総括・評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画に反映できる学修となることを目指す。

1年生2名ともが、システムに関するテーマについて＜ヘルスケアシステム＞（春山・本田担当）を、看護ケアに関するテーマについては＜メンタルヘルスケア＞（半澤・永井担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

1年生1名は永井が主の、春山・本田が副の、もう1名は成田が主の、半澤・本田が副の研究指導教員となっている。2年生1名は春山が主の、永井・本田が副の、もう1名は成田が主の、中村・春山が副の研究指導教員となっている。

また、博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーを6月、9月、11月、1月の年4回開催した。博士後期課程の学生は、セミナーで毎回、特に、11月、1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討等について、研究指導教員以外の教員にも助言を得たり、博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

【地域保健医療研究論 渡邊・非常勤講師担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議により、地域保健医療の将来像を踏まえ、医学、情報学等の他の学問分野における課題を見出し、人々を取り巻く地域保健医療システムに関する研究方法や最新の知見を学修する。1年生2名、2年生2名が履修した。

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2013年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 論文

- 1) Shiro Kitada, Koichiro Otsuka, Ryoichi Watanabe, Naoki Takeda, Satoshi Kato : The Intervention Effectiveness of Home Medical Care Provided for Schizophrenic Patients by an Internal Medicine Clinic – A Challenge for Comprehensive Care Including Treatment for Physical Disorders –. *Jichi Medical University Journal*, 35:35-47, 2013.
- 2) Setsuko Hanzawa, Jeon-Kyu Bae, Yong Jun Bae, Moon-hyeon Chae, Hideki Tanaka, Hideyuki Nakane, Yasuyuki Ohta, Xianghua Zhao, Hideki Iizuka, Yoshibumi Nakane : Psychological impact on caregivers traumatized by the violent behavior of a family member with schizophrenia. *Journal of Asian Psychiatry*, 6 (1):46-51, 2013.
- 3) 北田志郎 : 在宅医療専門内科診療所において統合失調症患者を心身統合的アプローチにより診療することの意義に関する研究 –「GP – 精神科医 – 多職種訪問チームモデル」の可能性 – (博士論文). 2013.
- 4) 飯塚秀樹, 長橋雅俊 : Consecutive Interpreting Approachに基づくプロソディー重視の口頭練習がL2筆記再生に与える効果, 英語展望 ELEC BULLETIN, 120:62-72, 2013.

(2) 学会発表

- 1) Nosaki, A., Otsuka, K., Hanzawa, S., Iwasaki, Y. : Small group program to improve resilience of Japanese-Brazilian children in Japan relating to PTSD after Great East Japan Earthquake. The 16th EAFONS Developing International Networking for Nursing Research, 21-22 February 2013. (Abstract : 403, 2013)
- 2) 大塚公一郎 : シニフィアンからみた虚偽主題. 精神病理コロック2012-2013 in 京都, 京都. 2013年1月13日.
- 3) 塩田勝利, 吉成美春, 鈴木洋平, 西嶋康一, 大塚公一郎, 加藤 敏 : 人工透析患者におけるせん妄が少量のオランザピンと環境調整で改善した一例. 第109回精神神経学会, 福岡. 2013年5月30日. (精神神経学雑誌 2013特別号 : 409, 2013)
- 4) 大塚公一郎 : 非定型精神病と創造性. – 非定

型精神病の語りはいかにして文化となるか –. シンポジウム4 「現代社会における文化的視点からとらえた非定型精神病の解釈と今後の方向性」. 第109回精神神経学会, 福岡. 2013年5月30日.

5) 大塚公一郎 : 文化・狂気・創造へのまなざし – 宮本忠雄の多文化間精神医学への寄与 –. シンポジウム4 『日本の代表的文化精神医学者は「文化」を取り込むことで何を言おうとしたのか』. 第20回多文化間精神医学会学術総会, 宇都宮. 2013年6月14日. (プログラム・抄録集 : 47, 2013)

6) 大塚公一郎 : サイコネフロロジー入門. 第13回春日井透析セミナー特別講演. 春日井市. 2013年9月19日.

7) 大塚公一郎 : 文化と非定型精神病 – 生態学的ニッチの観点から –. シンポジウム. 『精神医学史における「自律と連続」の融合』. 第17回日本精神医学史学会, 東京. 2013年11月10日. (抄録集 : 44-45 : 2013)

8) 北田志郎 : 伝統医学的手法をも駆使した在宅医療の可能性 (シンポジウム「コミュニケーションアートと多文化間精神医学」). 第20回多文化間精神医学会学術総会, 宇都宮. 2013年6月14日. (第20回多文化間精神医学会学術総会抄録集 : 56, 2013)

9) 北田志郎 : 地域緩和ケアの推進をめざして – あおぞら診療所におけるIPWとIPEの歩み – (シンポジウム「真の多職種協働を目指して – 課題と工夫 –」). 第26回日本サイコオンコロジー学会総会, 大阪. 2013年9月21日. (第26回日本サイコオンコロジー学会総会抄録集 : 76, 2013)

10) 飯塚秀樹 : Consecutive Interpreting Approachに基づく英語指導法の実際 – その具体的効果と学生による授業評価から –. 日本通訳翻訳学会第14回年次大会, 神田外語大学(千葉県). 2013年9月8日.

11) 飯塚秀樹 : Consecutive Interpreting Approachに基づく外国語指導法とその効果・汎用性についての考察. 第19回日英・英語教育学会研究大会, 2013年9月21日.

(3) 著書・総説

- 1) 渡邊亮一 : 医療行為と医療専門職の責務. 「新版医療情報(第2版) 医学・医療編」所収. pp.55-63, 篠原出版新社, 2013.

(4) その他（報告書、学会以外での発表等）

- 1) 渡邊亮一：病院概論。「ホスピタルエンジニア認定のための講習会テキスト（第2版）」所収. pp.1-4, 一般社団法人日本医療福祉設備協会, 2013.
- 2) 岡本悦司, 小橋 元, 坂田清美, 佐藤敏彦, 西浦 博, 横山英世, 岡田充史, 尾島俊之, 亀崎 豊実, 高橋美保子, 富田敦子, 山本秀樹, 渡邊亮一：サブノートF第37版 保健医療論・公衆衛生学（2014年版）. Medic Media, 2013.
- 3) 渡邊亮一ほか編：新版医療情報（第2版）医学・医療編. 篠原出版新社, 2013.
- 4) 渡邊亮一ほか編：新版医療情報（第2版）情報処理技術編. 篠原出版新社, 2013.
- 5) 渡邊亮一ほか編：新版医療情報（第2版）医療情報システム編. 篠原出版新社, 2013.
- 6) 大塚公一郎, 加藤 敏：多文化の「間」をつなぐ実践知への旅立ち. こころと文化 12:138-139, 2013.
- 7) 北田志郎：リンパ浮腫に対する様々な治療法～薬物療法～（教育講演）. 第9回日本医療リンパドレナージ協会学術大会, 東京. 2012年10月7日. (講演録：第9回日本医療リンパドレナージ協会学術大会記録集：42-46, 2013)
- 8) 北田志郎：在宅医療と漢方（特別講演）. 第1回北部地区「全人的医療」研究会, 沖縄. 2013年8月6日.
- 9) 飯塚秀樹：第1学年英語学習に関する出前授業. 総合的な学習の時間, 茨城県立日立商業高等学校. 2013年2月20日.
- 10) 飯塚秀樹：Consecutive Interpreting Approachによる英語学習. 英語指導法研修会, 茨城大学教育学部附属中学校, 2013年7月18日.
- 11) 飯塚秀樹：Consecutive Interpreting Approachに基づく英語教授法. 文部科学省後援ELEC夏期英語教育研修会, ELEC英語研修所（東京）. 2013年7月31日.
- 12) 飯塚秀樹：音声中心の英語学習法と全商英検対策. 平成25年度総合的な学習の時間, 千葉県立千葉商業高等学校. 2013年10月29日.

基礎看護学

(1) 学会発表

- 1) 本田芳香, 高山志穂, 里光やよい: 看護過程展開演習における思考力向上を目指したマインドマップ活用に関する一考察, 第5回医療教授システム学会, 東京, 2013年3月3日, p 221
- 2) 本田芳香, 中村友子, 神田貴代他: 緩和ケア病棟看護師の感情体験に関する研究, 金沢, 2013年2月16日 (日本がん看護学会誌27 (2), p349, 2013)
- 3) 飯塚由美子, 本田芳香, 里光やよい, 山本真由美, 若澤弥生, 岩永麻衣子, 湯山美杉: 急性骨髓性白血病看護のナラティブな語りを活用した紙上事例の教材開発, 第27回日本がん看護学会学術集会, 金沢, 2013年2月16日, p 324
- 4) 熊谷祐子, 本田芳香: 経験豊富な看護師の行う清拭技術の分析 -言語化されない技術の検証, 第12回日本看護技術学会, 2013年9月14日, p 243
- 5) 滝 恵津, 本田芳香, 熊谷祐子: 神経内科病棟の看護師が獲得しているベッドから車いすへの移乗動作技術の暗黙知, 第12回日本看護技術学会, 2013年9月14日, p 332
- 6) 小原 泉, 竹野井さとみ, 渡辺芳江, 上野充代, 大貫晃子, 手塚芳美, 高橋寿々代, 町田静生, 竹井裕二, 藤原寛行, 鈴木光明, 本田芳香: がん臨床試験および臨床試験チームに関するチームメンバーの認識: 第51回癌治療学会抄録, 京都 2013年10月25日, p 230

地域看護学

(1) 論文

- 1) 島田裕子, 関山友子, 工藤奈織美, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗, 星野典子, 鈴木祐美, 五月女祐子: 東日本大震災発生後の県外からの避難者を対象とした栃木県内の避難所活動における保健師の課題. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10; 23-33, 2013.
- 2) 本田芳香, 春山早苗, 朝野春美, 上野久子, 福田順子, 高久美子, 渡井 恵, 小松崎香, 茂呂悦子, 塚本友栄, 村上礼子, 横山由美, 千葉理恵: 大規模病院で働く看護職のキャリアニーズの特性 – 地方都市の大学病院における調査から -. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10; 47-57, 2013.
- 3) 朝野春美, 塚本友栄, 茂呂悦子, 高久美子, 小松崎香, 渡井 恵, 福田順子, 上野久子, 千葉理恵, 横山由美, 村上礼子, 本田芳香, 越智芳江, 春山早苗: A病院に勤務する看護職員のキャリアアンカーの特徴. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10; 69-77, 2013.
- 4) 青木さぎ里, 春山早苗: 離島保健師が離島内に居住することと地域看護活動との関連. 日本ルーラルナーシング学会誌, 8; 17-30, 2013.

(2) 学会発表

- 1) Haruyama S, Tsukamoto T, Nakao Y, Shionoya A, Kudo N, Shimada H, Sekiyama T, Aoki S, Suzuki K: The practical issues of municipal public health nurse activities in areas that include rural and urban communities. The 5th international conference on community health nursing research, Edinburgh, UK. 13th March 2013. (Transforming Community Health: the Nursing Impact Poster Presentation Abstracts; 2, 2013)
- 2) Shimada H, Sekiyama T, Kudo N, Tsukamoto T, Suzuki K, Haruyama S, Soutome Y, Hoshino N, Suzuki Y: Health needs of nuclear disaster refugees from Fukushima in another prefecture following the Great East Japan Earthquake. The 5th international conference on community health nursing research, Edinburgh, UK. 14th March 2013. (Transforming Community Health: the Nursing Impact Poster Presentation

Abstracts; 21, 2013)

- 3) 青木さぎ里, 島田裕子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗: 市町村における新人保健師の到達目標の主観的達成度と入職後1年間に経験した実践した内容. 日本地域看護学会第16回学術集会, 徳島. 2013年8月4日. (日本地域看護学会第16回学術集会講演集, 73, 2013)
- 4) 春山早苗, 塚本友栄, 今道英秋, 神田健史, 森田喜紀, 古城隆雄, 前田隆治, 谷 憲治, 井口清太郎, 澤田 努, 中澤勇一, 角町正勝, 梶井英治: 都道府県第11次へき地保健医療計画におけるへき地診療所およびへき地医療拠点病院看護職の確保・支援の実態. 日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会, 七尾. 2013年10月13日. (日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集; 36, 2013)
- 5) 青木さぎ里, 春山早苗: 離島保健師の生活と地域看護活動を結び付けている認識. 日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会, 七尾. 2013年10月13日. (日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集; 58, 2013)
- 6) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 牛尾裕子, 岩瀬靖子, 大内佳子, 松下清美, 小窪和博, 松本珠美, 塚田ゆみ子: 東日本大震災発災後の保健所及び県庁における地域保健活動体制再構築の様相. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月23日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 521, 2013)
- 7) 平野かよ子, 島田美喜, 藤井広美, 中板育美, 小西かおる, 荒木田美香子, 大神あゆみ, 春山早苗, 山口佳子, 石川貴美子, 尾崎米厚, 神馬征峰, 上木隆人: 保健活動の質に関する評価指標の作成 (第1報) – 母子保健活動 –. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 572, 2013)
- 8) 藤井広美, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 小西かおる, 島田美喜, 中板育美, 春山早苗, 山口佳子, 尾崎米厚, 神馬征峰, 上木隆人, 平野かよ子: 保健活動の質に関する評価指標の作成 (第2報) – 健康づくり活動 –. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 572, 2013)
- 9) 石川貴美子, 荒木田美香子, 大神あゆみ, 小西かおる, 島田美喜, 中板育美, 春山早苗, 藤井広美, 山口佳子, 上木隆人, 尾崎米厚, 神馬征

- 峰, 平野かよ子: 保健活動の質に関する評価指標の作成（第3報）－高齢者保健福祉活動－. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 572, 2013)
- 10) 山口佳子, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 小西かおる, 島田美喜, 中板育美, 春山早苗, 藤井広美, 尾崎米厚, 神馬征峰, 上木隆人, 平野かよ子: 保健活動の質に関する評価指標の作成（第4報）－精神保健福祉活動－. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 573, 2013)
- 11) 小西かおる, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 島田美喜, 中板育美, 春山早苗, 藤井広美, 山口佳子, 尾崎米厚, 神馬征峰, 上木隆人, 平野かよ子: 保健活動の質に関する評価指標の作成（第5報）－難病保健活動－. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 573, 2013)
- 12) 春山早苗, 荒木田美香子, 石川貴美子, 大神あゆみ, 小西かおる, 島田美喜, 中板育美, 藤井広美, 山口佳子, 尾崎米厚, 神馬征峰, 上木隆人, 平野かよ子: 保健活動の質に関する評価指標の作成（第6報）－感染症保健活動－. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 573, 2013)
- 13) 高村寿子, 江角伸吾, 阿相栄子, 上原里程, 春山早苗, 中村好一: メキシコ合衆国における健康なライフスタイルづくりシステム化支援事業(1). 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 616, 2013)
- 14) 江角伸吾, 高村寿子, 阿相栄子, 上原里程, 春山早苗, 中村好一: メキシコ合衆国における健康なライフスタイルづくりシステム化支援事業(2). 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 616, 2013)
- 15) 中村好一, 江角伸吾, 高村寿子, 阿相栄子, 上原里程, 春山早苗: メキシコ合衆国における健康なライフスタイルづくりシステム化支援事業(3). 第72回日本公衆衛生学会総会, 津. 2013年10月25日. (第72回日本公衆衛生学会総会抄録集60(10); 616, 2013)
- 16) 渡邊芳江, 春山早苗, 塚本友栄: 特定機能病院における外来看護師の電話による療養支援内容. 第17回日本看護管理学会学術集会, 東京. 2013年8月24日. (第17回日本看護管理学会学術集会抄録集, 267, 2013)
- 17) 江角伸吾: メキシコのピアリーダーたち, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山. 2013年8月31日. (第32回日本思春期学会総会・学術集会抄録集, 54, 2013)
- 18) 白鳥クニ子, 石田登喜子, 江角伸吾, 高村寿子: 東日本大震災復興支援－思春期ピアカウンセラーによるピアキャラバン・プロジェクト活動の成果と課題（第1報）, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山. 2013年9月1日. (第32回日本思春期学会総会・学術集会抄録集, 101, 2013)
- 19) 石田登喜子, 白鳥クニ子, 江角伸吾, 高村寿子: 東日本大震災復興支援－思春期ピアカウンセラーによるピアキャラバン・プロジェクト活動の成果と課題（第2報）, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山. 2013年9月1日. (第32回日本思春期学会総会・学術集会抄録集, 102, 2013)
- 20) 江角伸吾, 高村寿子, 中村好一: メキシコ農山村部における思春期ピアエデュケーションの地域住民への波及効果, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山. 2013年9月1日. (第32回日本思春期学会総会・学術集会抄録集, 99, 2013)
- 21) 江角伸吾, 高村寿子, 石田登喜子: 被災地ピアエデュケーション勉強会の学びから, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山. 2013年9月1日. (第32回日本思春期学会総会・学術集会抄録集, 102, 2013)

(3) 著書・総説

- 1) 鈴木久美子: 第1章 公衆衛生看護学概論 第II節 公衆衛生看護の歴史 第1項 保健婦規則制定以前の地域における看護活動. 最新公衆衛生看護学 第2版 2013年版 総論（宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京）, 21-28, 2013.
- 2) 春山早苗: 第1章 公衆衛生看護学概論 第II節 公衆衛生看護の歴史 第2項 保健婦規則制定以後の保健婦活動 第3項 ヘルスニーズに対応した保健婦活動の確立. 最新公衆衛生看護学

第2版 2013年版 総論（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），28-68, 2013.

3) 春山早苗，平山朝子：第1章 公衆衛生看護学概論 第Ⅲ節 ヘルスケアシステムの中で機能する看護。第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第Ⅳ節 地域ケア体制づくり 第1項～第3項の1. 最新公衆衛生看護学 第2版 2013年版 総論（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），69-100, 295-321, 2013.

4) 春山早苗：第2章 健康課題の特性に応じた活動論 第Ⅳ節 感染症保健福祉活動 第1項～第5項。最新公衆衛生看護学 第2版 2013年版

各論1（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），260-301, 2013.

5) 春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第1項 へき地における公衆衛生看護活動。最新公衆衛生看護学 第2版 2013年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），144-158, 2013.

6) 塩ノ谷朱美，春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第3項 山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動。最新公衆衛生看護学 第2版 2013年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），179-187, 2013.

7) 青木さぎ里：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第2項 離島における公衆衛生看護活動の4離島における保健師活動の実際。最新公衆衛生看護学 第2版 2013年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），169-178, 2013.

(4) 実践報告

1) 島田裕子，鈴木美子，春山早苗：自然災害に備えるための市町村保健師の活動方法。自治医科大学看護学ジャーナル，10；79-86, 2013.

(5) その他（報告書，学会以外での発表等）

1) 島田裕子，春山早苗，鈴木久美子，塚本友栄，工藤奈織美，関山友子，五月女祐子，星野典子，鈴木祐美：看護学部看護系教員共同研究報告，大震災発生時の県外からの避難者を対象とした避難所活動における保健師の役割。自治医科大学看護学ジャーナル，10；106, 2013.

2) 春山早苗，鈴木久美子，塚本友栄，島田裕子，工藤奈織美，関山友子，青木さぎ里：地域特性の相違性が大きい地域が内在する市町の保健師活動における地区管理方法。科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書 基盤研究(C)2010～2012, 1-6, 2013.

3) 春山早苗：感染症対策に関する保健活動の評価指標の作成。平成24年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）「保健活動の質の評価指標開発」平成24年度 研究年度終了報告書, 73-79, 2013.

4) 宮崎美砂子，奥田博子，春山早苗，牛尾裕子，岩瀬靖子，大内佳子，松下清美，小窪和博，館石宗隆，塚田ゆみ子，松本珠江：東日本大震災被災地の地域保健基盤の組織体制のあり方に関する研究。平成24年度 厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「地域健康安全・危機管理システムの機能評価及び質の改善に関する研究」報告書 分担研究報告書, 459-494, 2013.

5) 宮崎美砂子，奥田博子，春山早苗，牛尾裕子，岩瀬靖子，大内佳子，松下清美，小窪和博，館石宗隆，塚田ゆみ子，松本珠江：東日本大震災被災地の地域保健基盤の組織体制のあり方に関する研究。平成23～24年度 厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「地域健康安全・危機管理システムの機能評価及び質の改善に関する研究」総合報告書 分担研究報告書, 45-71, 2013.

6) 春山早苗，荒木田美香子，上野まり，佐藤紀子，澤井美奈子，椎葉倫代，筑波優子，三森寧子，榎本妙子，植村小夜子，三橋美和，田中小百合，堀井節子：新任期保健師現任教育の課題と今後の取り組み－新任期保健師の認識と大学教員との協働による現任教育例から－。日本地域看護学会第16回学術集会ワークショップ1, 徳島, 2013年8月3日。（日本地域看護学会第16回学術集会講演集, 30, 2013)

精神看護学

(1) 論文

- 1) 半澤節子, 中根秀之:【うつ病を「客観的に」診断するとは? -どこからが病気か-】自殺予防の取り組みとアンチステイグマ活動 メンタルヘルス・リテラシー研究から考える, 精神科22(3), 278-284,2013.
- 2) Kido Y, Kawakami N, Miyamoto Y, Chiba R, Tsuchiya M: Social capital and stigma toward people with mental illness in Tokyo, Japan. Community mental health journal, 49 (2), 243-247, 2013.
- 3) 朝野春美, 塚本友栄, 茂呂悦子, 高久美子, 小松崎香, 渡井 恵, 福田順子, 上野久子, 千葉理恵, 横山由美, 村上礼子, 本田芳香, 越智芳江, 春山早苗:病院に勤務する看護職員のキャリア・アンカーの特徴, 自治医科大学看護学ジャーナル10,69-77,2013.
- 4) 本田芳香, 春山早苗, 朝野春美, 上野久子, 福田順子, 高久美子, 渡井 恵, 小松崎香, 茂呂悦子, 塚本友栄, 村上礼子, 横山由美, 千葉理恵:大規模病院で働く看護職のキャリアニーズの特性 地方都市の大学病院における調査から, 自治医科大学看護学ジャーナル 10,47-57,2013.
- 5) 橋爪紀子, 小林宏高, 花田拓也, 小池純子, 伊藤利之, 高岡 徹:学齢後期脳性麻痺児へのリハ介入のあり方 フォローアップ体制構築に向けた予備調査, リハビリテーション研究紀要22号,3-6,2013.

(2) 学会発表

- 1) 宇佐美しおり, 川名典子, 福嶋好重, 田中美恵子, 岡谷恵子, 相澤和美, 永井優子, 小山達也, 福川麻耶: “精神科リエゾン・チーム”の運用と看護師・精神看護専門看護師等の役割・機能, 日本精神保健看護学会第23回学術集会抄録集, 47,2013.
- 2) 児玉真一, 飯島 浩, 青野雅人, 上野忠浩, 藤記拓也, 小池純子:横浜市リハビリテーション事業団における車椅子シーティングクリニックの25年目の動向(会議録)リハ工学カンファレンス講演論文28回,43-44,2013.
- 3) 板橋直人, 野崎章子, 小池純子, 半澤節子, 永井優子, 小川錦次:地域で生活する統合失調症

患者に対する精神科看護職者の認識の変化 看護方式変更後1年5ヶ月後に着目して, 自治医科大学看護学ジャーナル10,109, 2013.9.

- 4) 稲澤明香, 高岡 徹, 中尾真理, 橋爪紀子, 小林宏高, 小池純子, 伊藤利之:重度障害者用意思伝達装置の使用状況についての調査, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 50 (Suppl.), 286, 2013.
- 5) 橋爪紀子, 小林宏高, 高岡 徹, 小池純子, 伊藤利之:特別支援学校等における入浴用介助用リフト体験会の報告, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 50 (Suppl.) 227,2013.
- 6) 小林宏高, 高岡 徹, 小池純子, 伊藤利之:当センターにおける高次脳機能障害者の社会参加へのアプローチについて, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 50 (Suppl.), 180,2013.

(3) その他(報告書, 学会以外での発表等)

- 1) 橋爪紀子, 小池純子:【もう悩まない! 100症例から学ぶリハビリテーション評価のコツ】小児(症例94) ダウン症候群, MEDICAL REHABILITATION 163号ね415-419,2013.
- 2) 半澤節子:学会設立20周年を迎えて経緯と期待:学会誌通巻1号から32号に掲載された特集と投稿論文などの動向から, 精神障害とリハビリテーション, 17 (1),14-18,2013.
- 3) 半澤節子:海外の精神障害リハビリテーション研究の紹介, 精神障害とリハビリテーション, 17 (2),210-211,2013.

母性看護学

(1) 学会発表

- 1) 谷田部仁子, 成田 伸, 望月明見, 野々山未希子: A病院における新生児蘇生法の現状と今後に向けての課題. 第15回日本母性看護学会, 仙台市. 2013年7月7日.
- 2) 能登桃子, 成田 伸: 両親が双子を育てるために行った調整に関する体験. 第54回日本母性衛生学会, さいたま市. 2013年10月5日.
- 3) 竹田まゆ美, 野々山未希子: 初めての子どもが胎児異常を診断された妊婦の夫の妊娠・出産を通しての体験. 第54回日本母性衛生学会学術集会, さいたま市. 2013年10月4日.
- 4) 野々山未希子: 10代女性の性暴力被害経験と性感染症. 日本性感染症学会第26回学術大会, 岐阜. 2013年11月16日.
- 5) 野々山未希子: 性感染症予防活動の課題と今後の活動. 日本性感染症学会第26回学術大会, 岐阜. 2013年11月17日.
- 6) 角川志穂: 孫育てにおける祖父母の思い, 第38回栃木県母性衛生学会学術集会, 栃木. 平成25年6月29日.
- 7) 角川志穂: 育児期における家族機能の向上をめざした家族学級の意義. 第54回日本母性衛生学会, さいたま市. 2013年10月5日. (母性衛生, 54 (3); 252, 2013.)

(2) 著書・総説

- 1) 成田 伸編; 成田 伸, 坂梨 薫, 福島裕子, 岸利江子, 勝川由美, 水流聰子, 長坂桂子, 遠藤恵子著: 助産師基礎教育テキスト第3巻「周産期における医療の質と安全」, 第2版. 日本看護協会出版会, 2013.
- 2) 池ノ上克, 前原澄子監訳; 菊地圭子, 望月明見, 成田 伸他訳: みえる生命誕生－受胎・妊娠・出産 (The Pregnant Body Book). 南江堂, 2013.
- 3) 野々山未希子: 2014年助産師国家試験全国統一模擬試験「さんもし」第1回「回答と解説」. インターメディカル, 頁未公開, 2013.
- 4) 野々山未希子: 2014年助産師国家試験全国統一模擬試験「さんもし」第2回「回答と解説」. インターメディカル, 頁未公開, 2013.
- 5) 野々山未希子: 性感染症予防啓発・健康教育

ガイド: 「思春期までの性の健康『思春期の性の悩み 女子』」, 中央法規出版株式会社, 印刷中

(3) 実践報告

- 1) 成田 伸, 宇山房子, 土屋幸子: 栃木県助産師再就業支援研修および就業支援研修4年間の成果. 栃木母性衛生, 第39号, pp.27-30, 2013.
- 2) 片平有紀, 武藤香子, 藤川智子, 小嶋由美, 成田 伸: 栃木県助産師会会員における新生児蘇生法講習会受講状況と今後の課題. 栃木母性衛生, 第39号, pp.31-34, 2013.

(4) その他（報告書, 学会以外での発表等）

- 1) 成田 伸: 助産実践におけるガイドラインの活用～陣痛促進剤の使用法・輸液ポンプでの管理含む～. 平成25年度栃木県助産師就業支援研修, 宇都宮市, 2013年11月15日.
- 2) 小嶋由美, 成田 伸: ケーススタディ（妊娠・分娩期の異常、医師との協働）. 平成25年度栃木県助産師就業支援研修, 宇都宮市, 2013年12月20日.
- 3) 野々山未希子: 無防備な性行動による望まない妊娠・性感染症を防止するために、今できること. 第7回医療従事者と養護教諭のための性の健康基礎講座, 東京. 2013年12月8日.

小児看護学

(1) 論文

- 1) 本田芳香, 春山早苗, 朝野春美, 上野久子, 福田順子, 高久美子, 渡井 恵, 小松崎香, 茂呂悦子, 塚本友栄, 村上礼子, 横山由美, 千葉理恵: 大規模病院で働く看護職キャリアニーズ特性—地方都市の大学病院における調査から—・自治医科大学看護ジャーナル, 10: 47-57, 2013.
- 2) 朝野春美, 塚本友栄, 茂呂悦子, 高久美子, 小松崎香, 渡井 恵, 福田順子, 上野久子, 千葉理恵, 横山由美, 村上礼子, 本田芳香, 越智芳江, 春山早苗: A病院に勤務する看護職員のキャリア・アンカーの特徴・自治医科大学看護ジャーナル, 10: 69-77, 2013.
- 3) Okano Y, Kobayashi K, Ihara K, Ito T, Yoshino M, Watanabe Y, Kaji S, Ohura T, Nagao M, Noguchi A, Mushiake S, Hohashi N, Hashimoto-Tamaoki T: Fatigue and quality of life in citrin deficiency during adaptation and compensation stage. Molecular Genetics and Metabolism, 109(1): 9-13, 2013
- 4) Honashi N, Kobayashi K: The effectiveness of a forest therapy (shinrin-yoku) program for girls aged 12 to 14 years: a crossover study. Stress Science Research, 28: 82-89, 2013
- 5) Kobayashi K, Hayakawa A, Hohashi N: Interrelations Between Siblings and Parents in Families Living With Children With Cancer. Journal of Family Nursing, in press

(2) 学会発表

- 1) 田邊由美子, 本田有利子, 横山由美, 渡井 恵: 小児集中治療室で終末期を過ごす子どもの母親のニーズ・第44回日本看護学会 小児看護 学術集会, 栃木, 抄録集: 153, 2013.
- 2) 玉村尚子, 横山由美: 在宅移行した重症心身障害児の母親の心理的変容・第39回日本重心心身障害学会学術集会, 栃木, 日本重症心身障害学会誌, 38 (2) : 338, 2013.
- 3) 斎藤正恵, 黒田光恵, 横山由美, 小林京子, 玉村尚子: 終末期にある小児がん病児の同胞への支援の検討・第11回日本小児がん看護学会, 福岡, 第11回日本小児がん看護学会プログラム総会号: 380, 2013.

- 4) Kobayashi K., Hayakawa A., Hohashi N.: Interrelation between sibling's quality of life and parent's family functioning in families with children with childhood cancer: a multiinformant study. 11th International Family Nursing Conference, Minneapolis Minnesota, USA. 20 June, 2013
- 5) Kamibeppu K., Kobayashi K., Murayama S., Nishigaki K., Ikeda M., Fujioka H., Konishi M., Sato I., Higuchi A., Hoshi Y.: Relationship between parental bonding and posttraumatic stress symptoms of childhood cancer survivors. 11th International Family Nursing Conference, Minneapolis Minnesota, USA. 20 June, 2013.
- 6) Kobayashi K., Nakagami-Yamaguchi E., Hayakawa A., Adachi S., HaraJ., Tokimasa S., Ohta H., Hashii Y., Rikiishi T., Sawada M., Kuriyama K., Kohdera U., Kamibeppu K., Kawasaki H., Oda M., Hori H.: Health-related quality of life in children with acute lymphoblastic leukemia who were treated the Japan Association of Childhood Leukemia Study ALL02-Revised. 45th Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Hong Kong, China. 25-28 September, 2013.

(3) 資料

- 1) 小林京子, 法橋尚宏: 入院児の家族の付き添い・面会の現状と看護師が抱く家族ケアに対する困難と課題に関する全国調査. 日本小児看護学会誌, 22 (1) : 129-134, 2013

成人看護学

(1) 論文

- 1) Murakami, R., Shiromaru, M., Yamane, R., Hikoyama, H., Sato, M., Takahashi, N., Yoshida, S., Nakamura, M. and Kojima, Y.: Implications for better nursing practice : psychological aspects of patients undergoing post-operative wound care, *J Clin Nurs*, 22(7-8) : 939-947, 2013.
- 2) 中村美鈴, 村上礼子, 清水玲子: 救急領域における延命治療の選択に対する家族の意思決定に関する研究 家族と医師の話し合いのプロセス, *日本救急看護学会雑誌*, 15(2) : 1-12, 2013.
- 3) 茂呂悦子, 平良由香里, 鈴木典子, 中村美鈴: へき地における急性・重症患者看護専門看護師の活動の可能性と今後の課題 CNSの実習を通して, *自治医科大学看護ジャーナル*, 10 : 87-92, 2013.
- 4) 北村露輝, 中村美鈴, 松浦利江子, 段ノ上秀雄: 看護師とのパートナーシップによる上部消化管がん患者の術後機能障害の緩和 術後6ヵ月間に着目して, *自治医科大学看護学ジャーナル*, 10 : 59-67, 2013.
- 5) 段ノ上秀雄, 北村露輝, 松浦利江子, 荒木智絵, 小原 泉, 村上礼子, 中村美鈴: ペースメーカー埋め込み術を受けた成人への病棟看護師による退院後の日常生活についての看護支援の実施状況とその理由, *自治医科大学看護ジャーナル*, 10 : 35-46, 2013.
- 6) 橋本幹子, 中村美鈴, 内海香子: 2型糖尿病をもつ長距離運転者が認知しているPoor Controlの要因, *自治医科大学看護学ジャーナル*, 10 : 13-22, 2013.
- 7) 上澤弘美, 中村美鈴: 初療で代理意思決定を担う家族員への関りに対して看護師が抱える困難と理由, *日本クリティカルケア看護学会誌*, 9(1) : 6-18, 2013.
- 8) 朝野春美, 塚本友栄, 茂呂悦子, 高久美子, 小松崎香, 渡井 恵, 福田順子, 上野久子, 千葉理恵, 横山由美, 村上礼子, 本田芳香, 越智芳江, 春山早苗: A病院に勤務する看護職員のキャリア・アンカーの特徴, *自治医科大学看護学ジャーナル*, 10 : 69-77, 2013.
- 9) 本田芳香, 春山早苗, 朝野春美, 上野久子, 福田順子, 高久美子, 渡井 恵, 小松崎香, 茂呂

悦子, 塚本友栄, 村上礼子, 横山由美, 千葉理恵: 大規模病院で働く看護職のキャリアニーズの特性 地方都市の大学病院における調査から, *自治医科大学看護学ジャーナル*, 10 : 47-57, 2013.

(2) 学会発表

- 1) Nakamura, M., Murakami, R., Matuura, R., Dannoue, H., Kohara, I. and Araki, T.: ESTABLISHING OF A SCORING SYSTEM TO EVALUATE POSTOPERATIVE FUNCTIONAL DISORDERS AFTER SURGERY FOR GASTRIC CANCER IN JAPAN, 25th International Council of Nurses, Melbourne, 2013.
- 2) Kohara, I., Watanabe, Y., Takenoi, S., Tezuka, Y., Ohnuki, A., Ueno, M. and Honda, Y.: Nurses' evaluation of informed consent forms in oncology clinical trials, The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference, Bangkok, Thailand, November 22-24, 2013, (AONS 2013 : 144-145, 2013.)
- 3) 村上礼子, 松浦利江子, 小原 泉, 北村露輝, 段ノ上秀雄, 川中子智絵, 中村美鈴: 看護過程演習における教授方法の評価, 第23回日本看護学教育学会, 仙台, 2013年8月7日, (日本看護学教育学会誌23巻学術集会講演集 : 154, 2013.)
- 4) 吉田紀子, 村上礼子, 中村美鈴: 地域医療における急性・重症患者看護専門看護師の役割と課題の一考察, 日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会, 和倉, 2013年10月13日, (日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集 : 56, 2013.)
- 5) 吉田紀子, 中村美鈴: 延命治療に関する家族の代理意思決定を支えるクリティカルケア熟練看護師の看護実践: 第1報, 第15回日本救急看護学会学術集会, 福岡, 2013年10月19日, (日本救急看護学会抄録集15 (3) : 189, 2013.)
- 6) 吉田紀子, 中村美鈴: 延命治療に関する家族の代理意思決定を支えるクリティカルケア熟練看護師の省察的な看護実践: 第2報, 第15回日本救急看護学会学術集会, 福岡, 2013年10月19日, (日本救急看護学会抄録集15 (3) : 190, 2013.)
- 7) 中村美鈴: 交流セッション; 救急領域における学生の臨床実践能力を育成するための基礎教育と臨床の連携「臨床教授等の制度」導入後の現状と課題 大学教員の立場から, 第15回日本救急看

護学会学術集会, 福岡, 2013年10月19日, (日本救急看護学会抄録集15 (3) ; 99, 2013.)

8) 中村美鈴, 村上礼子, 淺田義和, 鈴木義彦, 小原 泉, 段ノ上秀雄, 横山定美, 吉田紀子, 安藤 恵: 交流セッション; カフェ的会話が救急看護の未来を拓く—ワールドカフェを体験しよう!—, 第15回日本救急看護学会学術集会, 福岡, 2013年10月19日, (日本救急看護学会抄録集15 (3) ; 103, 2013.)

9) 小原 泉, 竹野井さとみ, 渡辺芳江, 上野充代, 大貫晃子, 手塚芳美, 高橋寿々代, 町田静生, 竹井裕二, 藤原寛行, 鈴木光明, 本田芳香: がん臨床試験および臨床試験チームに関するチームメンバーの認識, 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013年10月24日, (日本癌治療学会誌48 (3) ; 2126, 2013.)

(3) 著書・総説

1) Nakamura, M., A, T · Lefor., Hosoya, Y., Doki, Y. and Yano, Y. : Evaluation of Dysfunction After Upper Gastrointestinal Surgery, Development of the DAUGS Scoring System, Kyoto University Press, 2013.

2) 中村美鈴: 救急看護における患者・家族の意思決定に対する新たな提言, 日本救急看護学会雑誌, 15 (1) ; 21-30, 2013.

3) 小原 泉: 有害事象の情報収集・評価・マネジメント, がん臨床試験テキストブック, 医学書院, 197-202, 2013.

(4) 資料

1) 北村露輝, 中村美鈴, 小原 泉, 村上礼子, 松浦利江子, 段ノ上秀雄, 荒木智絵, 福嶋安子, 石岡登美子, 半田知子, 小畠美加子: 上部消化管がん患者の術後機能障害を目指した看護師とのパートナーシップのあり方, 自治医科大学看護学ジャーナル, 10 ; 113, 2013.

2) 川上 勝, 中村美鈴, 佐藤信枝, 村上礼子, 宇城 令, 長井栄子, 段ノ上秀雄, 河野龍太郎, 淺田義和, 早瀬行治: 看護学生を対象とした発展的救命処置トレーニングプログラムの開発, 自治医科大学看護学ジャーナル, 10 ; 108, 2013.

3) 村上礼子, 中村美鈴, 小原 泉, 松浦利江子, 北村露輝, 段ノ上秀雄, 荒木智絵, 水戸美津子, 朝野春美, 福嶋安子, 渡辺芳江, 薬真寺美佐子:

自治医科大学附属病院における看護専門外来開設に向けての体制作り, 自治医科大学看護学ジャーナル, 10 ; 107, 2013.

4) 松浦利江子, 村上礼子, 中村美鈴, 小原 泉, 北村露輝, 段ノ上秀雄, 荒木智絵, 水戸美津子, 朝野春美, 福嶋安子, 渡辺芳江, 薬真寺美佐子: 自治医科大学附属病院における看護専門外来開設に向けての体制作り 外来看護師が感じている課題, 自治医科大学看護学ジャーナル, 10 ; 115, 2013.

(5) その他 (報告書, 学会以外での発表等)

1) 小原 泉, 村上礼子, 吉田紀子, 段ノ上秀雄, 横山定美, 安藤 恵, 中村美鈴: 看護過程演習におけるグループ学習の教授方法の課題, 第12回自治医科大学シンポジウム, 自治医科大学, 2013年9月5日, (第12回自治医科大学シンポジウム抄録集 ; 61, 2013.)

2) 段ノ上秀雄, 中村美鈴, 村上礼子, 松浦利江子, 小原 泉, 荒木智絵, 北村露輝, 横山定美, 吉田紀子, 安藤 恵: ESTABLISHMENT OF A SCORING SYSTEM TO EVALUATE POSTOPERATIVE FUNCTIONAL DISORDERS AFTER SURGERY FOR GASTRIC CANCER IN JAPAN – PRESENT AND FUTURE –, 第12回自治医科大学シンポジウム, 自治医科大学, 2013年9月5日, (第12回自治医科大学シンポジウム抄録集 ; 61, 2013.)

3) 鈴木 和, 中村美鈴: 非緩解期に化学療法を受ける造血器がん患者の希望, 日本がん看護学会誌, 27suppl ; 160, 2013.

老年看護学

(1) 論文

- 1) 高野倉雅人, 川上 勝, 遠藤 誠, 西川昌宏, 武藤友和, 石黒圭応: 摩擦軽減を目指した座位移乗用トランスファーボード使用時の介助者の負担軽減効果について, 日本福祉工学会誌, 15(1); 27-33, 2013.

(2) 学会発表

- 1) 宮林幸江: 遺族における悲嘆プロセスの諸相. 第27回日本がん看護学術集会, 金沢. 2013年2月16日. (第27回日本がん看護学術集会 講演集; 301, 2013)
- 2) 宮林幸江: 脳血管障害による方麻痺発症における思いとレジリエンス (報告第二). NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第19回全国の集いin 新潟, 新潟. 2013年9月22日. (NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク講演集; 78, 2013)
- 3) 宮林幸江, 浜端賢次: Resilience of Elderly Stroke-Hemiplegia patient -From onset to Acceptance-Narrative Approach. 9th International Nursing Conference, Korea. 2013年10月16日. (9th International Nursing Conference program book; 28, 2013)
- 4) 川上 勝, 野澤翔馬, 尾崎功一: 夜勤介護職員の訪室実態把握—転倒・転落事故の防止をねらって—, 第8回医療の質・安全学術集会, 東京. 2013年10月23日. (医療の質・安全学会誌 (8 (Supplement)); 205, 2013)
- 5) 高野倉雅人, 上原涼太郎, 三宅将文, 西川昌宏, 川上 勝: 転倒・転落予防を目指したベッド上および病室内での動作検出システムの開発—感圧センサと赤外線センサの利用—, 第8回医療の質・安全学術集会, 東京. 2013年10月23日. (医療の質・安全学会誌 (8 (Supplement)); 206, 2013)
- 6) 宇城 令, 川上 勝, 浅田義和, 高山詩穂, 鈴木義彦, 井上義孝, 寺山美華, 野沢博子, 井上和子, 河野龍太郎: 対象の日常生活場面を想定した授業・研修が展開できる装着型関節拘縮体験シミュレータの試用, 第8回医療の質・安全学術集会, 東京. 2013年10月24日. (医療の質・安全学会誌 (8 (Supplement)); 386, 2013)

(3) 著書・総説

- 1) 宮林幸江: 患者さんと死別した家族へのグリーフケア. Smiley Nurse, 32; 8-9, 2013.
- 2) 宮林幸江: 患者さんを看取り前のグリーフケア. Smiley Nurse, 33; 8-9, 2013.
- 3) 宮林幸江: 患者さんを看取った同僚のグリーフケア. Smiley Nurse, 34; 8-9, 2013.
- 4) 宮林幸江: 介護の現場でのグリーフケア. 臨床老年看護, 20 (3); 68-75, 2013.
- 5) 伊藤 茂(編), 宮林幸江, 川口多津子, 伊藤久美, 角田直枝, 渡辺陽子, 徳永里絵, 山脇道晴, 清原恵美, 高橋洋子, 渡辺俊之, 関本昭治, 田村恵美: 遺体管理の知識と技術 エンゼルケアからグリーフケアまで. 中央法規(東京), 310-319, 331-340, 347-351, 2013.

(4) 実践報告

- 1) 野澤翔馬, 富岡孝志, 川上 勝, 尾崎功一: 看護支援のための臥床時体動検知システムの開発. 第10回「学生&企業研究発表会」, 栃木. 2013年12月7日. (第10回「学生&企業研究発表会」予稿集; 98-99, 2013)
- 2) 尾崎功一, 川上 勝, 阿部有貴: 被検体の状態判断システム, 特願2013-253225. 2013.

資料

2013年度（平成25年度）看護学部学年暦

○前学期

4月1日（月）	ガイダンス（2・3・4年）
4月2日（火）	授業開始（2・3・4年）
4月5日（金）	入学式、オリエンテーション（1年）
4月8日（月）	授業開始（1年）
4月27日（土）～5月6日（月）	春季休業
5月7日（火）～5月31日（金）	
6月11日（月）～7月20日（金）	前学期実習（3年）
5月14日（火）	創立記念日
6月3日（月）～6月7日（金）	対象の理解実習（1年）
7月11日（木）～7月12日（金）	定期試験（4年）
7月16日（火）～7月19日（金）	妊娠期助産学実習（4年）
7月22日（月）～8月2日（金）	総合実習（4年）
7月23日（火）～7月26日（金）	定期試験（1・2年）
8月7日（水）～9月30日（月）	夏季休業
8月28日（水）～8月30日（金）	再試験

○後学期

10月1日（火）	授業開始
9月2日（月）～10月4日（金）	分娩・育児期助産学実習（4年）
9月24日（火）～10月4日（金）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月11日（金）～10月13日（日）	学園祭
10月15日（月）～10月25日（金）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月18日（月）～12月20日（金）	
1月6日（月）～2月14日（金）	後学期実習（3年）
12月21日（土）～1月5日（日）	冬季休業
2月10日（月）～2月14日（金）	定期試験（1・2年）
2月27日（木）～2月28日（金）	再試験
3月7日（金）	卒業式
3月21日（水）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成26年3月31日現在）

1. 教員数 44名

2. 学生数 427名

4年生（平成22年4月1日入学） 113名

3年生（平成23年4月1日入学） 104名

2年生（平成24年4月1日入学） 105名

1年生（平成25年4月1日入学） 105名

看護学部教職員名簿

1. 教員

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	西 浦 敬
大学事務副部長	石 崎 雅 司
(看護学部担当)	

(看護総務課)

職名	氏名
課長	樹秀
課長補佐 (兼) 係長	代千石
主事	美子
主事	平修
嘱託	子里

(看護学務課)

職名	氏名
課長	渡辺
参事(兼)課長補佐	豊田
係長	湯浅
主任	藤佐
主任	原三
主任	藤佐
嘱託	高柳

※平成25年4月1日～平成26年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2013年度（平成25年度）大学院看護学研究科学年曆

○前期

4月4日（木）	入学式 オリエンテーション、授業開始
4月11日（木）	履修計画の提出締切
5月14日（火）	創立記念日

○後期

10月1日（火）	授業開始
11月8日（金）	研究構想発表会
12月16日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切
1月27日（月）～1月31日（金）	論文審査・口頭試問
2月17日（月）	学位論文発表会（最終試験）
3月3日（月）	学位論文（保存用）提出締切
3月14日（金）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成26年3月31日現在）

1. 教員数	20名
2. 学生数	20名
2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	8（5）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	8（1）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（1）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（1）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職名	氏名	主要担当科目
教授	春山 早苗	地域看護管理学
教授	大塚 公一郎	共通科目
教授	永井 優子	精神看護学
教授	中村 美鈴	クリティカルケア看護学
教授	成田 伸	母性看護学
教授	野々山 未希子	母性看護学
教授	半澤 節子	精神看護学
教授	本田 芳香	がん看護学
教授	宮林 幸江	老年看護管理学
教授	渡邊 亮一	共通科目
准教授	大脇 淳子	小児看護学
准教授	北田 志郎	共通科目
准教授	小原 泉	がん看護学
准教授	里光 やよい	看護技術開発学
准教授	鈴木 久美子	地域看護管理学
准教授	塚本 友栄	地域看護管理学
准教授	角川 志穂	母性看護学
准教授	浜端 賢次	老年看護管理学
准教授	村上 礼子	クリティカルケア看護学
准教授	横山 由美	小児看護学

※平成25年4月1日～平成26年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	西浦 敬
大学事務副部長 (看護学部担当)	石崎 雅司

(看護総務課)

職名	氏名
課長	加納 秀樹
課長補佐(兼)係長	大石 千代
主事	森下 寿美子
主事	富川 修平
嘱託	中村 里子

(看護学務課)

職名	氏名
課長	渡辺 秀男
参事(兼)課長補佐	豊田 早苗
係長	湯浅 芳恵
主事	佐藤 真理央
主事	三佐 藤原 準也
嘱託	高槻 楓子

編集後記

皆様方の多くのご協力により、本号上梓の運びとなりました。

本年報は、本学看護研究科と看護学部の教育・研究活動を、その特色を示しながら、学内ののみならず、学外の皆様にもお伝えしていく使命を負っておりますが、本号では、平成25年度が開始年度であった私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」について、看護学研究科長にお忙しい中、特別に寄稿していただくことで、この使命をいくぶんなりとも果たせたのではないかと思っています。というのは、この研究事業は、地域ケアを担う人材育成から教育・支援システムの構築に至るまで日本型地域ケアの研究基盤を形成することを目的としており、地域医療の向上・発展への寄与という本学を際立たせる理念を体現するひとつの形と考えてもよいからです。

寄稿いただいた教員の皆様、編集作業にご協力いただいた事務職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。本年報もまた、本学の教育・研究の活性化に寄与し、看護学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう、次号以降も努めてまいります。

皆様の一層のご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

(平成27年3月編集委員会副委員長 大塚 公一郎)

編集委員会

自治医科大学看護学部
委員長 本田 芳香
副委員長 大塚公一郎
委員 小原 泉
 塚本 友栄
 飯塚 秀樹
 千葉 理恵
編集担当 看護総務課
 富川 修平

自治医科大学看護学部年報（第12号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第8号）

平成27年3月31日発行

発行者 学部長（研究科長） 春山早苗
編集責任者 編集委員会委員長 本田芳香
発行所 自治医科大学看護学部
栃木県下野市薬師寺3311-159
電話 0285（58）7409
印刷所 株式会社・テ・オ・印刷
栃木県宇都宮市陽東5-9-21
電話 028（662）2511（代）